

表 4.1.4-4(4/4) 注目すべき植物

種	①	②	③	④	⑤
オオシバナ			NT	NT	1
イトモ			NT	DD	1
イトトリゲモ			NT	DD	1, A
トリゲモ			VU	DD	1, A
オオトリゲモ				DD	1, A
コオニユリ				CE+EN	
ヒメイズイ				NT	
ミズアオイ			NT	要注目	
ノハナショウブ					1
カキツバタ			NT	要注目	1, A
アヤメ				要注目	
ハマニンニク					1, 4
オオウシノケグサ					4
カモノハシ					1
アシカキ				DD	
アイアシ				DD	1
タチドジョウツナギ				DD	
ケスズ					1
ネズミノオ				DD	
ミクリ			NT	DD	1
ヤマトミクリ			NT	DD	1, A
ナガエミクリ			NT	DD	1, A
マメスゲ				DD	1
オオクグ			NT	DD	1
イガガヤツリ				DD	
スジヌマハリイ			VU	DD	1
ナガボテンツキ				DD	2
ノグサ				DD	
イセウキヤガラ				VU	
タタラカンガレイ				VU	
ギンラン				VU	
ササバギンラン				要注目	
ハマカキラン			VU	要注目	1
カキラン				要注目	
ベニカヤラン				DD	1
ミズトンボ			VU	CR+EN	1
クモキリソウ					1, 4
マイサギソウ				DD	1
ヤマトキシソウ				要注目	
カヤラン				DD	1
ヒトツボクロ				DD	
173 種	0 種	0 種	47 種	125 種	109 種

※表 4.1.4-4 の見出しの丸数字は表 4.1.4-3 に対応する。

【③④の凡例】

EX(絶滅)：既に絶滅したと考えられる種

CR+EN(絶滅危惧 I 類)：絶滅の危機に瀕している種

CR(絶滅危惧 IA 類)：ごく近い将来野生で絶滅の危険性が高いもの

EN(絶滅危惧 IB 類)：IA 類ほどではないが、近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの

VU(絶滅危惧 II 類)：絶滅の危険が増大している種

NT(準絶滅危惧)：存在基盤が脆弱な種

DD(情報不足)：評価するだけの情報が不足している種

要注目(要注目種)：現時点で普通に見られるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種

【⑤の凡例】

・学術上重要な植物種

1: 仙台市においてもともと希産あるいは希少である種、あるいは分布が限定されている種

2: 仙台市が分布の北限、南限となっている種、あるいは隔離分布となっている種

3: 仙台市が模式産地(タイプロカリティー)となっている種

4: その他、学術上重要な種

・減少種

A: 以前に比べて減少傾向にあるが、現在はほとんど見ることでない種

資料：平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書(平成 23 年、仙台市)

平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書(平成 16 年、仙台市)

仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書(平成 14 年、宮城県)

(仮称) 仙台市荒井南土地地区画整理事業環境影響評価準備書(平成 24 年 5 月、仙台市荒井南土地地区画整理組合設立準備委員会)

(仮称) 仙台市荒井西土地地区画整理事業環境影響評価準備書(平成 24 年 6 月、仙台市荒井西土地地区画整理組合設立準備委員会)

表 4.1.4-5 注目すべき植物：現地踏査結果

種	①	②	③	④	⑤
エノキ					4
シロダモ					2
ミズオオバコ			VU		1
ミズアオイ			NT	要注目	
アイアシ				DD	1
ミクリ			NT	DD	1
イガガヤツリ				DD	
7種	0種	0種	3種	4種	5種

※表 4.1.4-5 の見出しの丸数字は表 4.1.4-3 に対応する。

【③④の凡例】

EX(絶滅)：既に絶滅したと考えられる種

CR+EN(絶滅危惧 I 類)：絶滅の危機に瀕している種

CR(絶滅危惧 IA 類)：ごく近い将来野生で絶滅の危険性が高いもの

EN(絶滅危惧 IB 類)：IA 類ほどではないが、近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの

VU(絶滅危惧 II 類)：絶滅の危険が増大している種

NT(準絶滅危惧)：存在基盤が脆弱な種

DD(情報不足)：評価するだけの情報が不足している種

要注目(要注目種)：現時点で普通に見られるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種

【⑤の凡例】

・学術上重要な植物種

1:仙台市においてもともと希産あるいは希少である種、あるいは分布が限定されている種

2:仙台市が分布の北限、南限となっている種、あるいは隔離分布となっている種

3:仙台市が模式産地(タイプロカリティ)となっている種

4:その他、学術上重要な種

・減少種

A:以前に比べて減少傾向にあるが、現在はほとんど見るこのできない種

表 4.1.4-6 震災前後の状況：注目すべき植物

震災前 (文献調査)	震災後 (現地踏査)
173種	7種

巨樹・巨木等については、「第4回自然環境保全基礎調査」(昭和63年、環境省)、「平成21年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成22年、仙台市)に基づいて把握した。その結果は表4.1.4-7及び図4.1.4-1に示すとおりであり、荒井地区のクワ、クロマツなど8箇所の巨樹・巨木等が確認された。これらの中で事業計画地と重複するものはない。

また、仙台市の保存樹木については、「杜の都の名木・古木」(平成21年、仙台市)に基づいて把握した。その結果は表4.1.4-8及び図4.1.4-1に示すとおりであり、照徳寺のいちょう、六郷のかやなど22箇所(うち7箇所は巨樹・巨木等と重複する)の保存樹木が確認された。これらの中で事業計画地と重複するものはない。

震災による影響の有無については、仙台市百年の杜推進課に聞き取りを行った。その結果、六郷のかや、照徳寺のいちょう、井土浜の黒松の3箇所に影響があったことが確認された。井土浜の黒松は流失、六郷のかやは枯死しており、指定解除あるいは解除手続き中とのことである。照徳寺のいちょうは樹勢が衰えているため、回復のための処置をしているとのことである。

表 4.1.4-7 巨樹・巨木等

番号	区分	地名	樹種	幹周 cm	樹高 m	独特の呼称	備考
11	単木	(銀杏町)	イチョウ	780	32	乳銀杏	国指定天然記念物 (苦竹のイチョウ)
22	単木	木ノ下	イチョウ	420	25		
23	単木	荒井	クワ	470	9		
24	単木	荒井	クロマツ	380	29	一本松	
25	単木	(一本杉町)	ケヤキ	410	20		
36	単木	二木	カヤ	500	17		
39	単木	(新田)	イチョウ	350	28		
42	単木	岡田	イチョウ	500	28		

※カッコ内は原典に記載がないため、所在地から情報を補完したもの。表中の番号は図4.1.4-1に対応する

資料：第4回自然環境保全基礎調査(昭和63年、環境省)

平成21年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書(平成22年、仙台市)

表 4.1.4-8 仙台市保存樹木

指定番号	名称	樹種	樹高 m	幹周 m	推定樹齢	備考
(1)	善應寺のきんもくせい	キンモクセイ	10.0	0.9	260年	
(2)	善応寺のいちい	イチイ	13.0	2.8	260年	
(3)	善応寺のしらかし	シラカシ	15.0	3.1	250年	
(37)	稲舟神社のもみじ	イロハカエデ	18.0	2.1	200年	
(38)	銀杏町のいちょう	イチョウ	32.0	7.8	1200年	上表11と同一
(71)	薬師堂のひいらぎ	ヒイラギ	7.0	1.6	200年	
(72)	薬師堂のあらかし	アラカシ	16.5	2.3	200年	
(73)	薬師堂のいちょう	イチョウ	25.0	4.0	350年	上表22と同一
(74)	七郷の大桑	クワ	8.5	4.7	300年	上表23と同一
(77)	聖ウルスラ学園のけやき	ケヤキ	20.0	4.2	250年	上表25と同一
(93)	古城の黒松	クロマツ	3.3	1.6	330年	
(94)	古城の臥竜梅	ウメ	8.0	1.3	360年	
(110)	六郷のかや	カヤ	17.0	3.2	300年	上表36と同一
(123)	大山祇神社のいちょう	イチョウ	21.0	3.6	200年	上表39と同一
(133)	西光寺の杉	スギ	24.0	2.4	350年	
(134)	西光寺のぎんもくせい	ギンモクセイ	5.5	1.1	350年	
(135)	照徳寺のいちょう	イチョウ	28.0	5.0	350年	上表42と同一
(139)	西光寺のあらかし	アラカシ	5.0	1.8	350年	
(140)	井土浜の黒松	クロマツ	3.0	0.9	200年	
(143)	福田町の黒松	クロマツ	6.0	1.2	350年	
(146)	若林区役所のしだれざくら	シダレザクラ	7.0	2.5	390年	
(172)	栄のぎよりゆう	ギョリュウ	4.4	0.9	130年	

※表中の番号は図4.1.4-1に対応する

資料：杜の都の名木・古木(平成21年、仙台市)

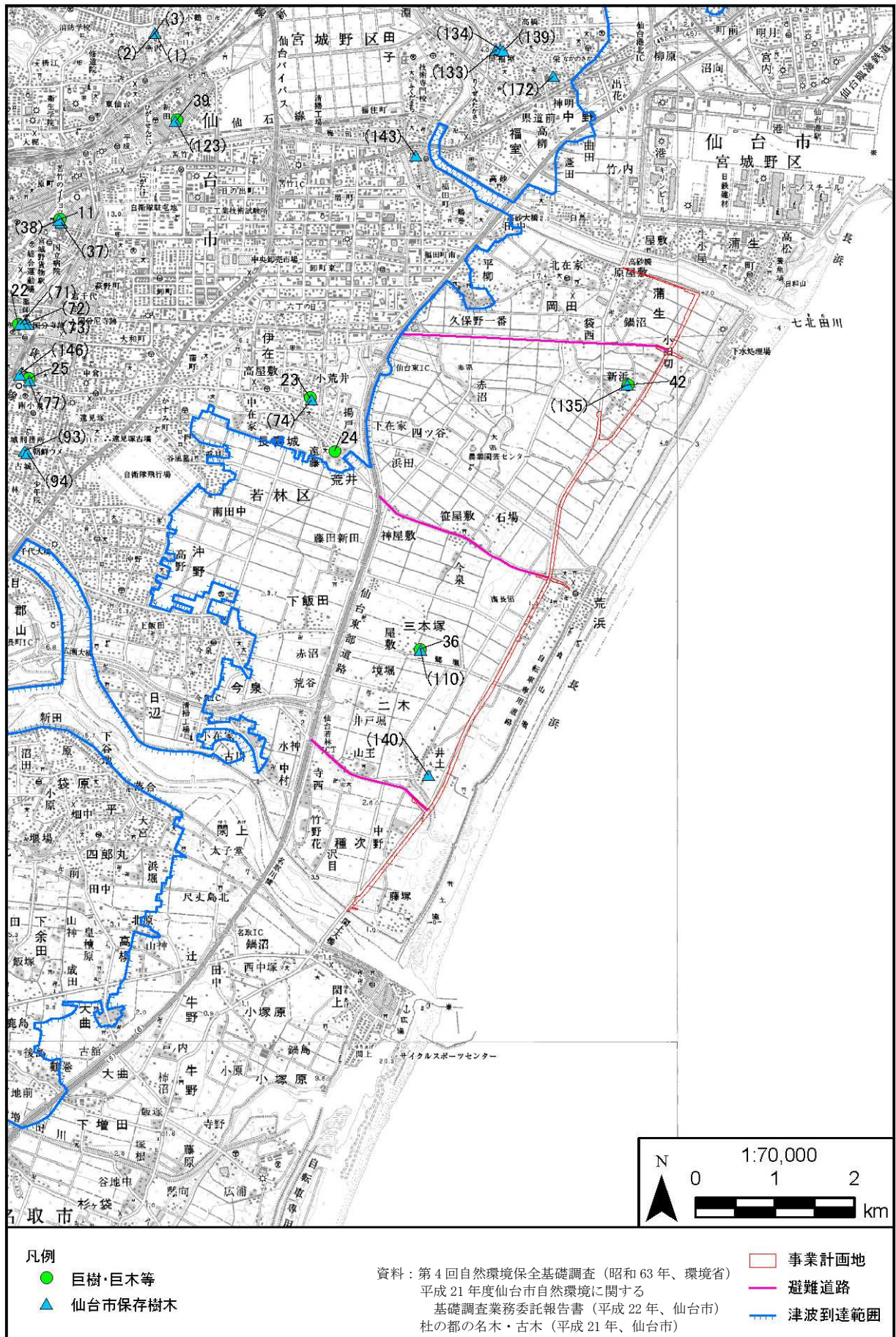


図 4.1.4-1 巨樹・巨木等位置

### (3) 植生の状況

#### a) 文献調査結果

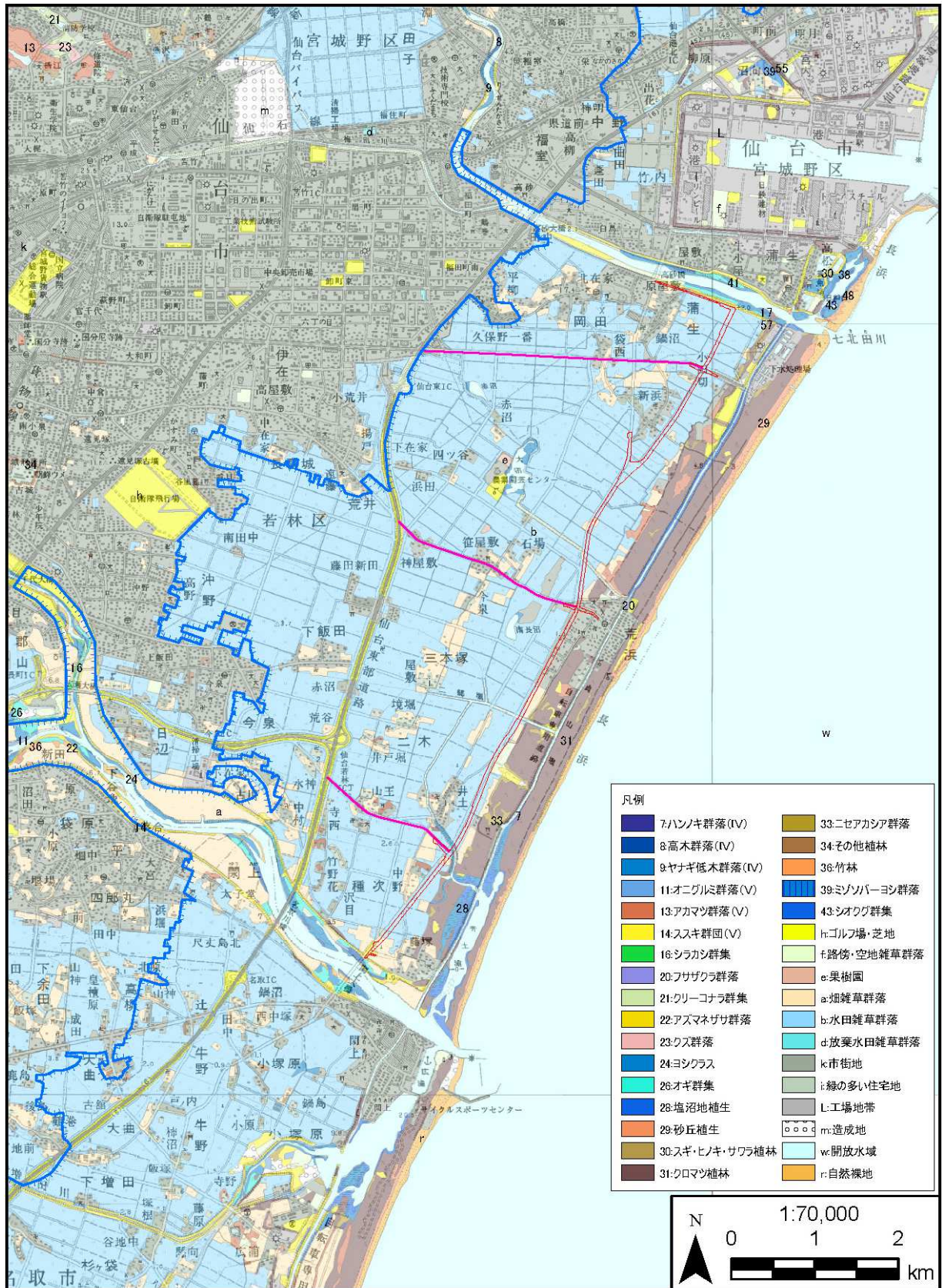
植生の状況については、「第6回・第7回自然環境保全基礎調査植生調査情報提供ホームページ」（環境省）に基づいて把握した。その結果は図4.1.4-2に示すとおりであり、事業計画地周辺から西側には広く水田雑草群落が広がっていた。事業計画地の東側には帯状にクロマツ植林が広がっており、さらにその東側には帯状に砂丘植生や自然裸地が広がっていた。名取川河口左岸側にある井土浦周辺にはヨシクラスや塩沼地植生が分布していた。

#### b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地周辺の植生の状況については、現地調査の結果から把握することとしており、今後植生図を作成するが、事業計画地周辺のほとんどがイネ科やカヤツリグサ科の草本が優占する単調な水田跡地雑草群落であった。七北田川や名取川の河川沿いにはヨシ群落が存在していた。また、井土地区には津波後に残ったクロマツ植林がわずかに存在していた。

#### c) 震災後の状況

震災前後の事業計画地周辺の植生は、震災前はほとんどがイネを主体とした水田雑草群落であったのに対して、震災後は主たる構成種がカヤツリグサ科やイネ科などのいわゆる水田雑草となるため、ほとんどが水田跡地雑草群落になるものと考えられる。なお、仙台市ホームページの「海岸防災林の再生」によれば、海岸公園区域内に存在していたクロマツ植林343.6haのうち307.0haが被災し、被害率75%以上の面積は134ha（40%）に及んだとのことである。



資料：第6回・第7回自然環境保全基礎調査植生調査情報提供ホームページ（環境省）

図 4.1.4-2 植生図

(4) 注目すべき植物群落

注目すべき植物群落については、「第2回自然環境保全基礎調査」(昭和54年、環境庁)の特定植物群落、「平成22年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成23年、仙台市)に示される植物生育地として重要な地域により把握した。

その結果は表4.1.4-9、図4.1.4-3及び図4.1.4-4に示すとおりであり、8箇所が抽出された。詳細は不明であるが、これらの多くは津波の影響を受けており、震災前の状況とは変わっている可能性がある。特に仙台湾岸の海岸林は「(3)植生の状況 c)震災後の状況」に示すとおり壊滅的な打撃を受けている。南長沼の池沼植物群落については、震災前から浚渫や碎石の集積が行われており、人為的な影響があるものと考えられる。事業計画地はこれらとは重複しない。

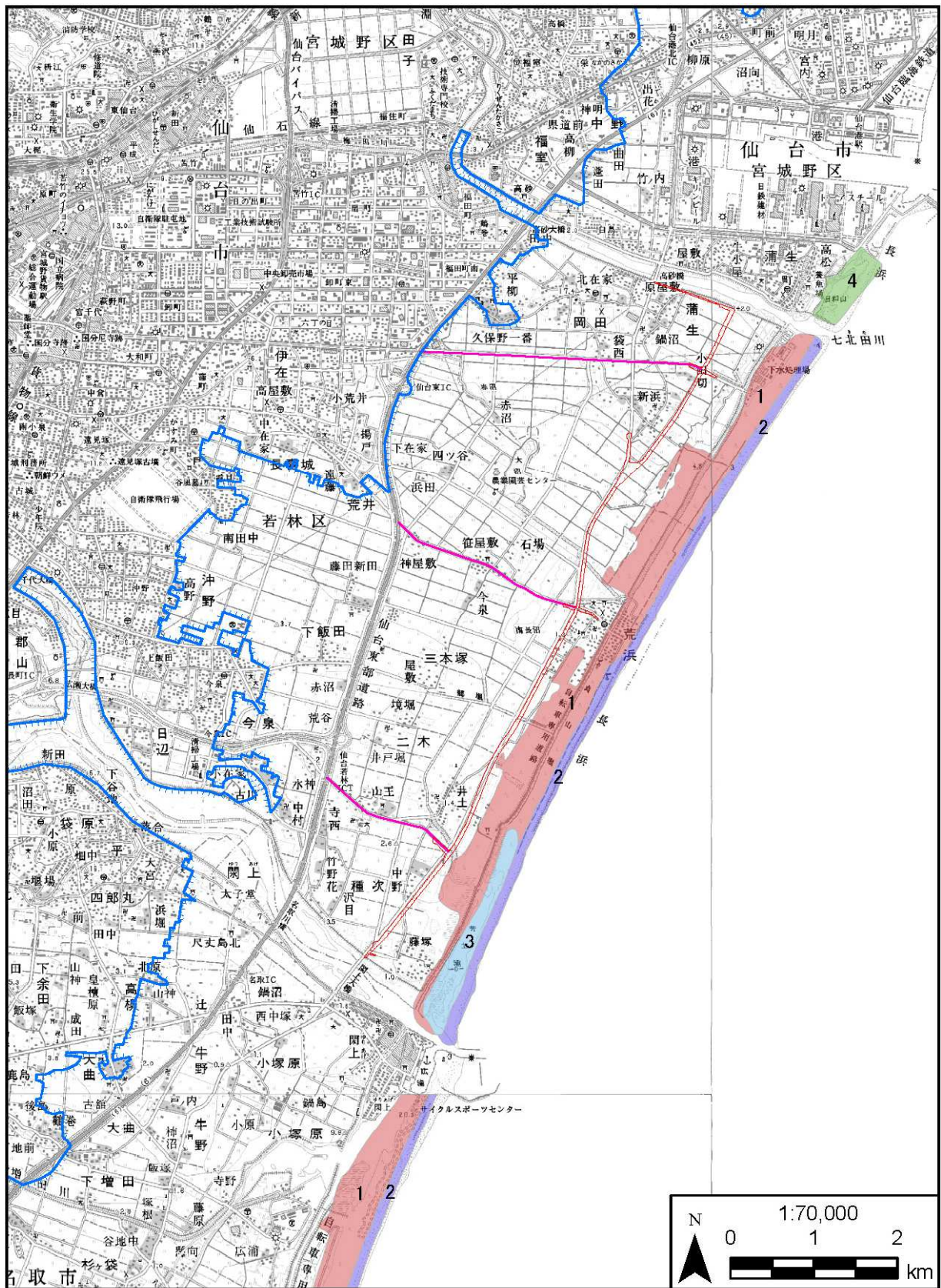
表 4.1.4-9 注目すべき植物群落

番号	名称	選定基準	内容
4, 8	蒲生の塩生植物群落	4, 5, 6, 7	仙台湾海浜県自然環境保全地域、仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区。干潮時には干上がる地やわずかに水を冠っている地にみられるオオシバナ、ハママツナ、ハマゼリ等を含む群落である。 (特定植物群落)
1, 9	仙台湾沿岸の海岸林	7, 9	仙台湾海浜県自然環境保全地域。飛砂、潮害防備保安林。仙台港より福島県境に至る約40kmの沿岸部。藩政時代からのクロマツ林で飛砂、潮風の防備の役割も大きい。 (特定植物群落)
2, 10	仙台湾沿岸の砂浜植物群落	1, 3, 4, 5, 6	仙台湾海浜県自然環境保全地域。同上の範囲の砂浜で、もっとも海側にはハマニンニク、内側ではコウボウムギ、さらに内側ではケカモノハシを主体とする群落が形成されている。 (特定植物群落)
3, 11	井土浦の塩生植物群落	1, 3, 4, 5, 6	仙台湾海浜県自然環境保全地域。名取川河口左岸に発達する潟で、水は塩分を含む。ヨシ群落等が発達し、ハママツナ、ハマゼリ等塩生植物を産する。 (特定植物群落)
29	名取川・広瀬川中～下流域の河畔植生	8, 9	広瀬川の清流を守る条例環境保全区域。河畔植生として保護が必要。
30	七北田川下流域の河畔植生	8, 9	河畔植生として保護が必要。
31	南長沼の池沼植物群落	1, 4	仙台平野唯一の沼。近年浚渫され水生植物は見られない。現在は池沼植物の生育地としての価値が著しく減少した。
40	榴ヶ岡・新寺・木下地区の緑地	7, 8	段丘に沿った緑地と社寺林景観。

※表中の番号は図4.1.4-3及び図4.1.4-4に対応する。

資料：第2回自然環境保全基礎調査(昭和54年、環境庁)

平成21年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書(平成23年、仙台市)



- 凡例
- 1. 仙台湾沿岸の海岸林
  - 2. 仙台湾沿岸の砂浜植物群落
  - 3. 井土浦の塩生植物群落
  - 4. 蒲生の塩生植物群落
  - 事業計画地
  - 避難道路
  - 津波到達範囲

資料：第2回自然環境保全基礎調査（昭和54年、環境庁）

図 4.1.4-3 注目すべき植物群落（特定植物群落）



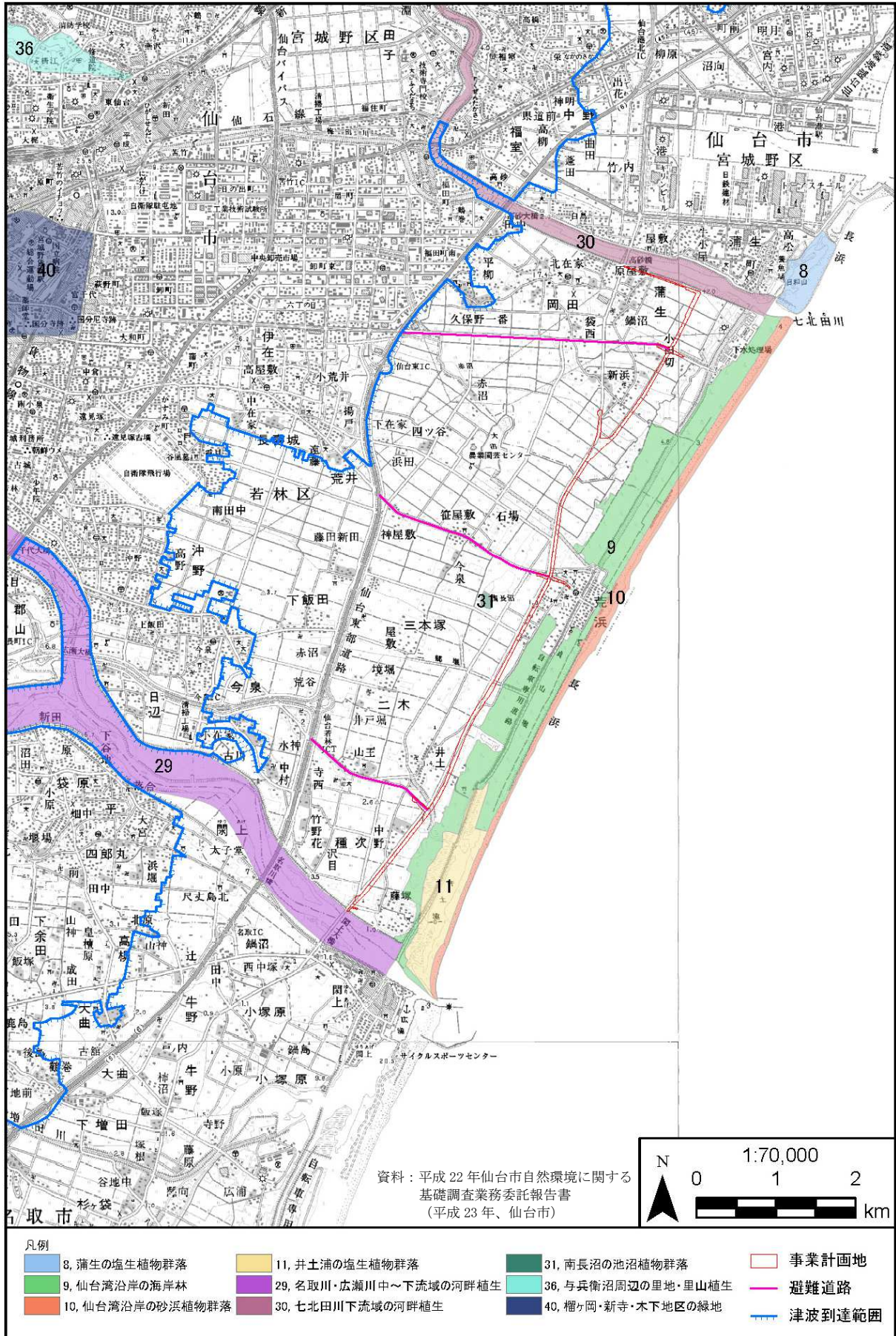


図 4.1.4-4 注目すべき植物群落（植物生育地として重要な地域）

#### (5) 植物についての保全上の留意点

文献調査の結果、概況調査範囲ではノダイオウ、フサタヌキモ、ミズトンボなど水生植物を多く含む注目種が確認されたほか、下流の井土浦周辺ではオカヒジキやハマツナなど塩生植物の注目種が確認されている。現地踏査でも注目種としてミクリやミズオオバコなど水生植物を中心とした7種が確認されている。事業の実施にあたっては、これらの生育環境の保全に留意が必要である。巨樹・巨木や注目すべき植物群落は事業計画地に直接係るものはないが、事業計画地の起終点に七北田川と名取川の河畔植生があるほか、下流側に井土浦の塩生植物群落が存在することから、その保全に留意が必要である。

## 2) 動物

### (1) 動物相の状況

動物相の状況は、震災前については「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年、仙台市)、「平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書」(平成 16 年、仙台市)、「仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書」(平成 14 年、宮城県)、「国指定仙台海浜鳥獣保護区井土浦特別保護地区指定計画書(環境省案)」(平成 18 年、環境省)、「国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区指定計画書(環境省案)」(平成 18 年、環境省)、「井土浦ハゼ科魚類生息状況調査報告書」(平成 23 年、株式会社エコリス)の資料に基づいて把握した。震災後の事業計画地周辺の状況については現地踏査により把握した。現地踏査は以下の日程、範囲で実施した。

表 4.1.4-10 現地踏査実施状況

項目	期日	対象範囲
動物	哺乳類：平成 24 年 9 月 3 日～5 日、 平成 24 年 9 月 29 日～30 日 鳥 類：平成 24 年 8 月 24 日、 平成 9 月 3 日～5 日 爬虫類：平成 24 年 9 月 3 日～5 日 両生類：平成 24 年 9 月 3 日～5 日 昆虫類：平成 24 年 9 月 3 日～5 日	事業計画地から概ね 250m の範囲
	魚 類：平成 24 年 10 月 1 日～4 日	事業計画地に係る水路 と北貞山運河

## a) 哺乳類

### (a) 文献調査結果

広大な水田地帯、河川沿いに広がるヨシ群落等の環境を反映し、アズマモグラ、ハタネズミ、カヤネズミなどの小型哺乳類や、タヌキ、キツネ、イタチなどの中型哺乳類が確認されていた。また、ヒナコウモリなどのコウモリ類も確認されていた。確認種数は16種であった。

### (b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地周辺の生息状況については、今後も調査を行いデータを蓄積するが、現地踏査ではアカネズミやハツカネズミなどの小型哺乳類が確認されたほか、タヌキやキツネなど中型哺乳類の生息が確認された。また、アブラコウモリの可能性があるコウモリ類が確認された。確認種数は6種であった。

### (c) 震災後の状況

震災前後の状況は表 4.1.4-10 に示すとおりであり、種数は16種から6種へ減少した。個別に見ると、アカネズミなどの小型哺乳類、タヌキやキツネなどの中型哺乳類、コウモリ類は震災後にも確認されているが、アズマモグラやノウサギなどは確認されず、津波による影響からの回復度合いが種によって異なることが推察される。今後、秋季、冬季、春季調査を行うため、確認種数は増加する可能性があることから、調査実施後に改めて比較を行うこととする。

表 4.1.4-10 震災前後の状況：哺乳類

科	種	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）
トガリネズミ科	ジネズミ	○	
モグラ科	アズマモグラ	○	
ヒナコウモリ科	アブラコウモリ	○	※1
ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ	○	
ウサギ科	ノウサギ	○	
リス科	ニホンリス	○	※2
ネズミ科	ハタネズミ	○	
ネズミ科	アカネズミ	○	○
ネズミ科	ヒメネズミ		○
ネズミ科	カヤネズミ	○	
ネズミ科	ハツカネズミ	○	○
ネズミ科	ドブネズミ	○	
イヌ科	タヌキ	○	○
イヌ科	キツネ	○	○
イタチ科	テン	○	
イタチ科	イタチ	○	
ジャコウネコ科	ハクビシン	○	○
合計	16 種	16 種	6 種

※1 バットディテクターにより 45kHz 付近での反応を確認した。種の特定はできないが、生息情報や周波数からアブラコウモリの可能性がある。

※2 ニホンリスのものと考えられるオニグルミの食痕を確認したが、古いものであるため津波等によって他地域から流されてきた可能性がある。

資料：平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 23 年、仙台市）  
 平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成 16 年、仙台市）  
 仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書（平成 14 年、宮城県）  
 国指定仙台海浜鳥獣保護区井土浦特別保護地区指定計画書（環境省案）（平成 18 年、環境省）  
 国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区指定計画書（環境省案）（平成 18 年、環境省）

## b) 鳥類

### (a) 文献調査結果

広大な水田地帯、河川沿いのヨシ群落、井土浦の干潟の環境を反映し、ダイサギやアマサギなどのサギ科、カルガモやマガモなどのカモ科、コチドリやダイゼンなどのチドリ科、キアシシギやタシギなどのシギ科、オオヨシキリやセッカなどのウグイス科、ホオジロやホオアカなどのホオジロ科、スズメやムクドリなどのスズメ科といった鳥類が確認されていた。確認種数は305種であった。

### (b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地周辺の生息状況については、今後も調査を行いデータを蓄積するが、水田が湿性の低茎草地となった箇所ではセッカやスズメ、ムクドリなどが確認された。スポット的に水たまりになった箇所ではダイサギやコチドリ、バンなどが確認された。河川沿いではオオヨシキリやハクセキレイ、ツバメなどが確認された。また、生態系上位種として、休耕中の水田周辺ではオオタカやチョウゲンボウ、河川や海岸沿いではミサゴなどが確認された。確認種数は56種であった。

### (c) 震災後の状況

震災前後の状況は確認種数が多いため科別の種数で行った。その結果は表4.1.4-11に示すとおりであり、確認種数は305種から56種に減少した。これは震災前の調査範囲が海岸沿いの砂浜や干潟から海岸林までを含む多様な環境を対象としているのに対して、震災後の現地踏査は事業計画地周辺の限定された範囲を対象としていることと、現地踏査時期が夏季のみであることに起因しており、双方を単純比較することはできない。個別に見ると、かつて海岸林に生息していたと考えられるキツツキ科やシジュウカラ科などの減少が見られることから、津波による森林性鳥類への影響が大きかったものと推察される。また、事業計画地周辺は低地の水田地帯としてセッカやホオアカの繁殖地とされている(図4.1.4-5参照)が、現地踏査でセッカは比較的多く確認されたものの、ホオアカは確認されなかったことから、津波による環境の変化が両種の生息に影響している可能性がある。生態系上位種のアオサギなどのサギ科やオオタカなどのタカ科は震災後にも確認されていることから、これらの生息を支える生態系下位の動物(サギ科の場合は魚類や甲殻類、タカ科の場合は主に小鳥類)は多数が生息しているものと推察される。今後、秋季、冬季、春季、初夏調査を行うため、確認種数は増加するものと考えられることから、調査実施後に改めて比較を行うこととする。

表4.1.4-11(1/2) 震災前後の状況：鳥類

科	震災前(文献調査)	震災後(現地踏査)	増減
アビ科	4	0	-4
カイツブリ科	5	2	-3
アホウドリ科	1	0	-1
ミズナギドリ科	7	0	-7
ウミツバメ科	2	0	-2
ウ科	4	2	-2
グンカンドリ科	1	0	-1
サギ科	13	7	-6
トキ科	3	0	-3

表 4.1.4-11(2/2) 震災前後の状況：鳥類

科	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）	増減
カモ科	32	6	-26
タカ科	14	4	-10
ハヤブサ科	4	2	-2
キジ科	4	1	-3
クイナ科	6	2	-4
タマシギ科	1	0	-1
ミヤコドリ科	1	0	-1
チドリ科	12	1	-11
シギ科	40	5	-35
セイタカシギ科	2	0	-2
ヒレアシシギ科	2	0	-2
ツバメチドリ科	1	0	-1
トウゾクカモメ科	3	0	-3
カモメ科	19	2	-17
ウミスズメ科	8	0	-8
ハト科	3	1	-2
カッコウ科	4	0	-4
フクロウ科	5	0	-5
ヨタカ科	1	0	-1
アマツバメ科	2	0	-2
カワセミ科	2	0	-2
ヤツガシラ科	1	0	-1
キツツキ科	4	2	-2
ヒバリ科	3	1	-2
ツバメ科	4	2	-2
セキレイ科	6	2	-4
サンショウクイ科	1	0	-1
ヒヨドリ科	1	1	0
モズ科	3	1	-2
レンジャク科	1	0	-1
ミソサザイ科	1	0	-1
イワヒバリ科	1	0	-1
ツグミ科	13	0	-13
ウグイス科	13	3	-10
ヒタキ科	6	0	-6
カササギヒタキ科	1	0	-1
エナガ科	1	0	-1
ツリスガラ科	1	0	-1
シジュウカラ科	4	1	-3
ゴジュウカラ科	1	0	-1
メジロ科	1	0	-1
ホオジロ科	12	2	-10
アトリ科	10	1	-9
カエデチョウ科	1	0	-1
ハタオリドリ科	2	1	-1
ムクドリ科	2	2	0
カラス科	5	2	-3
合計	305 種	56 種	-249 種

資料：平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 23 年、仙台市）  
平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成 16 年、仙台市）  
仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書（平成 14 年、宮城県）  
国指定仙台海浜鳥獣保護区井土浦特別保護地区指定計画書（環境省案）（平成 18 年、環境省）  
国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区指定計画書（環境省案）（平成 18 年、環境省）

c) 爬虫類

(a) 文献調査結果

広大な水田地帯の環境を反映してカナヘビやシマヘビ、アオダイショウが確認されていた。また、水路などの水辺ではクサガメが確認されていた。井土浦ではアカウミガメなどの漂着死体が確認されていた。確認種数は11種であった。

(b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地周辺の生息状況については、今後も調査を行いデータを蓄積するが、現地踏査では津波の犠牲と考えられるクサガメの古い死体を確認した。

(c) 震災後の状況

震災前後の状況は表4.1.4-12に示すとおりであり、震災後、爬虫類は確認されず、津波による爬虫類への影響が大きかったことが推察される。今後、秋季及び春季調査を行うため、確認種数は増加する可能性があることから、調査実施後に改めて比較を行うこととする。

表 4.1.4-12 震災前後の状況：爬虫類

科	種	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）
ウミガメ科	アカウミガメ	○	
オサガメ科	オサガメ	○	
イシガメ科	ニホンイシガメ	○	
イシガメ科	クサガメ	○	※
トカゲ科	ニホントカゲ	○	
カナヘビ科	ニホンカナヘビ	○	
ナミヘビ科	シマヘビ	○	
ナミヘビ科	ジムグリ	○	
ナミヘビ科	アオダイショウ	○	
ナミヘビ科	ヒバカリ	○	
ナミヘビ科	ヤマカガシ	○	
合計	11種	11種	0種

※現地踏査時にクサガメの死体を確認したが、かなり風化が進んでおり、津波の犠牲になったものが確認されたと考えられるため、種数にはカウントしなかった。

資料：平成22年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成23年、仙台市）  
 平成15年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成16年、仙台市）  
 仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書（平成14年、宮城県）



d) 両生類

(a) 文献調査結果

広大な水田地帯の環境を反映してニホンアマガエル、ニホンアカガエル、トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエルなどが確認されていた。確認種数は12種であった。

(b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地周辺の生息状況については、今後も調査を行いデータを蓄積するが、現地踏査ではニホンアマガエルとウシガエルの2種が確認された。また、上流から流下してきた可能性があるアズマヒキガエルの死体を確認した。

(c) 震災後の状況

震災前後の状況は表4.1.4-13に示すとおりであり、確認種数は12種から2種へ減少した。震災前は春から夏にかけては広大な水田地帯に水が張られて、両生類の良好な生息環境となっていたものと考えられるが、震災後の稲作の休止に伴う生息環境の減少は両生類にとって大きな影響があったものと推察される。今後、秋季、早春季、春季調査を行うため、確認種数は増加する可能性があることから、調査実施後に改めて比較を行うこととする。

表 4.1.4-13 震災前後の状況：両生類

科	種	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）
サンショウウオ科	トウホクサンショウウオ	○	
サンショウウオ科	クロサンショウウオ	○	
イモリ科	アカハライモリ	○	
ヒキガエル科	アズマヒキガエル	○	※
アマガエル科	ニホンアマガエル	○	○
アカガエル科	タゴガエル	○	
アカガエル科	ニホンアカガエル	○	
アカガエル科	トウキョウダルマガエル	○	
アカガエル科	ウシガエル	○	○
アカガエル科	ツチガエル	○	
アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	○	
アオガエル科	カジカガエル	○	
合計	12種	12種	2種

※現地踏査時にアズマヒキガエルの死体を確認したが、水路で確認されたため、上流から流下してきた可能性があるため、種数にはカウントしなかった。

資料：平成22年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成23年、仙台市）  
 平成15年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成16年、仙台市）  
 仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書（平成14年、宮城県）

e) 昆虫類

(a) 文献調査結果

広大な水田地帯、大沼などの池沼、農業排水路などの水辺環境を反映してイトトンボ科、ヤンマ科、トンボ科、ゲンゴロウ科、イネ科害虫を含むウンカ科、ヨコバイ科、ナガカメムシ科などが確認されていた。また、河川沿いや畑地周辺の草地環境を反映して、キリギリス科、バッタ科、ヒシバッタ科、セセリチョウ科、シロチョウ科などが確認されていた。確認種数は254種であった。

(b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地周辺の生息状況については、今後も調査を行いデータを蓄積するが、イトトンボ科やヤンマ科、トンボ科、ゲンゴロウ科、バッタ科などが確認された。確認種数は204種であった。

(c) 震災後の状況

震災前後の状況は確認種数が多いため科別の種数で行った。その結果は表4.1.4-14に示すとおりであり、種数は254種から204種へ減少した。これは鳥類と同様、震災前後の調査範囲や調査時期が異なることに起因しており、双方を単純に比較することはできない。個別に見ると、イトトンボ科やトンボ科など水域に依存する種の減少、ウンカ科やヨコバイ科など水田害虫の減少、カミキリムシ科やコメツキムシ科など森林に依存する種の減少が目立っている。一方、ガムシ科など種数の増加が見られるものもあり、震災に伴う生息環境の変化が昆虫類の確認種の増減の原因となっているものと推察される。今後、秋季及び春季調査を行うため、確認種数は増加するものと考えられることから、調査実施後に改めて比較を行うこととする。

表 4.1.4-14(1/3) 震災前後の状況：昆虫類

科	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）	増減
アオイトトンボ科	2	1	-1
イトトンボ科	9	3	-6
モノサシトンボ科	1	0	-1
ヤンマ科	6	1	-5
サナエトンボ科	1	0	-1
トンボ科	14	6	-8
カマキリ科	2	1	-1
マルムネハサミムシ科	1	0	-1
クロハサミムシ科	0	1	1
クギヌキハサミムシ科	1	0	-1
オオハサミムシ科	1	1	0
ツユムシ科	0	2	2
キリギリス科	3	4	1
ケラ科	0	1	1
マツムシ科	3	1	-2
コオロギ科	1	3	2
ヒバリモドキ科	1	3	2
バッタ科	5	5	0
イナゴ科	1	1	0

表 4.1.4-14(2/3) 震災前後の状況：昆虫類

科	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）	増減
オンブバッタ科	1	1	0
ヒシバッタ科	3	2	-1
ノミバッタ科	0	1	1
ヒシウンカ科	1	0	-1
ウンカ科	8	2	-6
シマウンカ科	1	0	-1
ハゴロモ科	0	1	1
セミ科	1	3	2
アワフキムシ科	2	0	-2
ヨコバイ科	11	3	-8
サシガメ科	2	0	-2
ハナカメムシ科	1	0	-1
カスミカメムシ科	1	4	3
マキバサシガメ科	0	1	1
ホソヘリカメムシ科	1	0	-1
ヘリカメムシ科	1	2	1
ナガカメムシ科	4	5	1
ツチカメムシ科	1	1	0
カメムシ科	1	4	3
アメンボ科	2	1	-1
ミズギワカメムシ科	0	1	1
ミズムシ科	0	2	2
コオイムシ科	2	0	-2
タイコウチ科	1	0	-1
マツモムシ科	0	1	1
ウスバカゲロウ科	1	0	-1
ハマキガ科	1	0	-1
イラガ科	1	0	-1
マダラガ科	1	0	-1
セセリチョウ科	3	1	-2
シジミチョウ科	5	3	-2
タテハチョウ科	5	1	-4
アゲハチョウ科	1	2	1
シロチョウ科	5	3	-2
ジャノメチョウ科	2	0	-2
ツトガ科	1	4	3
メイガ科	0	1	1
シャクガ科	0	2	2
スズメガ科	0	1	1
ヒトリガ科	0	1	1
カノコガ科	1	0	-1
ヤガ科	1	7	6
ムシヒキアブ科	1	0	-1
ハナアブ科	0	3	3
ヤチバエ科	0	1	1
ミバエ科	0	1	1

表 4.1.4-14(3/3) 震災前後の状況：昆虫類

科	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）	増減
クロバエ科	0	1	1
ホソクビゴミムシ科	0	1	1
オサムシ科	32	33	1
ハンミョウ科	2	2	0
ゲンゴロウ科	3	4	1
ガムシ科	3	8	5
エンマムシ科	2	0	-2
シデムシ科	1	0	-1
ハネカクシ科	10	8	-2
マルハナノミ科	1	1	0
クワガタムシ科	1	0	-1
コガネムシ科	7	5	-2
ナガドロムシ科	0	1	1
タマムシ科	2	0	-2
コメツキムシ科	7	0	-7
ホタル科	1	0	-1
ジョウカイモドキ科	3	1	-2
テントウムシ科	5	3	-2
キスイムシ科	0	1	1
テントウムシダマシ科	1	0	-1
オオキノコムシ科	1	1	0
ヒメマキムシ科	1	0	-1
ケシキスイ科	0	1	1
ホソヒラタムシ科	0	1	1
アリモドキ科	1	1	0
ツチハンミョウ科	0	1	1
ハナノミ科	3	0	-3
カミキリモドキ科	1	0	-1
ゴミムシダマシ科	12	1	-11
カミキリムシ科	3	0	-3
ハムシ科	9	9	0
ヒゲナガゾウムシ科	0	1	1
オトシブミ科	2	0	-2
ゾウムシ科	6	4	-2
オサゾウムシ科	0	1	1
キクイムシ科	0	1	1
ハバチ科	0	1	1
アリ科	3	9	6
ドロバチ科	0	1	1
スズメバチ科	1	0	-1
ベッコウバチ科	1	1	0
ツチバチ科	1	1	0
ドロバチモドキ科	1	0	-1
フシダカバチ科	1	0	-1
合計	254 種	204 種	-50 種

資料：平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 23 年、仙台市）  
平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成 16 年、仙台市）  
仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書（平成 14 年、宮城県）

f) 魚類

(a) 文献調査結果

コイやギンブナなどのコイ科のほか、スナヤツメなどが確認されていた。また、井土浦では汽水環境を反映して、ハゼ科やボラ科、ウナギやスズキなども確認されていた。確認種数は55種であった。

(b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地周辺の生息状況については、今後調査を行いデータを蓄積するが、現地踏査ではそのほとんどが淡水魚であるコイ科や、汽水魚を多く含むハゼ科など28種が確認された。

(c) 震災後の状況

震災前後の状況は表4.1.4-15に示すとおりであり、確認種数は55種から28種へ減少した。これは鳥類や昆虫類と同様、震災前後の調査範囲や調査時期が異なることに起因しており、双方を単純に比較することはできない。個別に見るとコイ、モツゴといった淡水性の種、クロダイ、ボラ、マハゼといった汽水性の種、ウナギやウグイといった回遊性の種など、各環境に応じた種が継続して確認された。また、ブルーギルやオオクチバスといった外来種が震災後に確認されたが、上流に位置する大沼などでの生息情報があることから、震災前から生息していた可能性が高いと考えられる。今後、春季調査を行うため、確認種数は増加する可能性があることから、調査実施後に改めて比較を行うこととする。

表 4.1.4-15 (1/2) 震災前後の状況：魚類

科	種	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）
ヤツメウナギ科	スナヤツメ	○	
ウナギ科	ウナギ	○	○
ニシン科	サッパ	○	○
ニシン科	コノシロ	○	○
カタクチイワシ科	カタクチイワシ	○	
コイ科	コイ	○	○
コイ科	ギンブナ	○	○
コイ科	キンブナ	○	
コイ科	タナゴ	○	
コイ科	アカヒレタビラ	○	
コイ科	マルタ	○	
コイ科	ウグイ	○	○
コイ科	ウグイ属	○	
コイ科	モツゴ	○	○
コイ科	シナイモツゴ	○	
コイ科	タモロコ	○	○
コイ科	ニゴイ	○	○
ナマズ科	ナマズ		○
アユ科	アユ	○	○
シラウオ科	シラウオ	○	
サケ科	サケ	○	
サケ科	サクラマス	○	
メダカ科	メダカ	○	○
サヨリ科	サヨリ	○	
トゲウオ科	イトヨ日本海型	○	

表 4.1.4-15(2/2) 震災前後の状況：魚類

科	種	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）
ヨウジウオ科	ヨウジウオ	○	
コチ科	マゴチ	○	
スズキ科	スズキ	○	○
シマイサキ科	コトヒキ	○	○
サンフィッシュ科	ブルーギル		○
サンフィッシュ科	オオクチバス（ブラックバス）		○
キス科	シロギス	○	
アジ科	マアジ		○
クロサギ科	クロサギ	○	
タイ科	クロダイ	○	○
メジナ科	メジナ	○	
ボラ科	ボラ	○	○
ボラ科	セスジボラ		○
ボラ科	メナダ	○	○
ボラ科	メナダ属	○	
ミシマオコゼ科	キビレミシマ	○	
イソギンポ科	イソギンポ	○	
ネズッコ科	ハタタテヌメリ	○	
ハゼ科	シロウオ	○	
ハゼ科	ヒモハゼ	○	
ハゼ科	ウキゴリ	○	○
ハゼ科	エドハゼ	○	
ハゼ科	ビリンゴ	○	○
ハゼ科	マハゼ	○	○
ハゼ科	アシシロハゼ	○	○
ハゼ科	マサゴハゼ	○	
ハゼ科	ヒメハゼ	○	○
ハゼ科	アベハゼ	○	
ハゼ科	シモフリシマハゼ	○	
ハゼ科	ヌマチチブ		○
ハゼ科	チチブ	○	
ハゼ科	チチブ属	○	
ヒラメ科	タマガンゾウビラメ	○	
カレイ科	ヌマガレイ	○	
カレイ科	イシガレイ	○	
フグ科	クサフグ	○	○
合計	61 種	55 種	28 種

資料：平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 23 年、仙台市）  
 平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成 16 年、仙台市）  
 井土浦ハゼ科魚類生息状況調査報告書（平成 23 年、株式会社エコリス）

g) 底生動物

(a) 文献調査結果

震災前の底生動物に関する情報は少ないが、「(仮称) 仙台市荒井南土地地区画整理事業環境影響評価準備書」に係る調査でモノアラガイが確認されていた。また、井土浦では汽水環境を反映してアサリやイソシジミなどの貝類、ゴカイ類、チゴガニなどの甲殻類が確認されていた。確認種数は37種であった。

(b) 現地踏査結果

震災後の事業計画地周辺の生息状況については、今後調査を行いデータを蓄積するが、魚類の現地踏査時にモクズガニやテナガエビなど13種の甲殻類を確認した。

(c) 震災後の状況

震災後の調査は行っていないため、ここでは震災前の確認種と魚類の現地踏査時に確認した甲殻類を示すにとどめる。今後、早春季及び初夏調査を行うため、確認種数は増加するものと考えられることから、調査実施後に改めて比較を行うこととする。

表 4.1.4-16(1/2) 震災前の確認種：底生動物

科	種	震災前 (文献調査)	震災後 (現地踏査)
スチロヒラムシ科	イイジマヒラムシ	○	
ウミニナ科	ホソウミニナ	○	
ウミニナ科	ウミニナ	○	
サザナミツボ科	サザナミツボ	○	
ミヅツボ科	エドガワミズゴマツボ	○	
ヘコミツララガイ科	マツシマコメツブ	○	
イガイ科	ホトトギスガイ	○	
ニッコウガイ科	サビシラトリガイ	○	
シオサザナミ科	イソシジミ	○	
マルスダレガイ科	アサリ	○	
オキナガイ科	ソトオリガイ	○	
カギゴカイ科	クシカギゴカイ	○	
ゴカイ科	ゴカイ	○	
ゴカイ科	イトメ	○	
スピオ科	ヤマトスピオ	○	
スピオ科	ドロオニスピオ	○	
イトゴカイ科	イトゴカイ	○	
イトゴカイ科	シダレイトゴカイ	○	
オフエリアゴカイ科	オフエリアゴカイ科	○	
ケヤリムシ科	ケヤリムシ科	○	
タナイス目	タナイス目	○	
クーマ目	クーマ目	○	
ユンボヨコエビ科	ニッポンドロソコエビ	○	
ドロクダムシ科	ウエノドロクダムシ	○	
ヨコエビ科	ヨコエビ科	○	
スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	○	
コツブムシ科	イソコツブムシ	○	
アミ科	Neomysis 属	○	
ヌマエビ科	ヌマエビ		○

表 4.1.4-16(2/2) 震災前の確認種：底生動物

科	種	震災前（文献調査）	震災後（現地踏査）
テナガエビ科	シラタエビ		○
テナガエビ科	テナガエビ		○
テナガエビ科	スジエビ		○
エビジャコ科	エビジャコ	○	
アメリカザリガニ科	ザリガニ		○
スナモグリ科	ニホンスナモグリ	○	
アナジャコ科	ヨコヤアナジャコ	○	
ワタリガニ科	イシガニ		○
ムツハアリアケガニ科	アリアケモドキ	○	○
コメツキガニ科	チゴガニ	○	
コメツキガニ科	コメツキガニ	○	
オサガニ科	ヤマトオサガニ	○	○
ベンケイガニ科	クロベンケイガニ		○
ベンケイガニ科	アシハラガニ		○
モクズガニ科	アカイソガニ属	○	
モクズガニ科	モクズガニ		○
モクズガニ科	ケフサイソガニ		○
モクズガニ科	イソガニ		○
ユスリカ科	ユスリカ科	○	
合計	48 種	37 種	13 種

資料：仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書（平成 14 年、宮城県）



(2) 注目すべき動物の状況

注目すべき動物の状況については、文献確認種から表 4.1.4-17 の注目すべき動物の選定基準に該当する種を抽出するとともに、事業計画地の近隣で実施されている「(仮称) 仙台市荒井南土地地区画整理事業環境影響評価準備書」(平成 24 年 5 月、仙台市荒井南土地地区画整理組合設立準備委員会) 及び「(仮称) 仙台市荒井西土地地区画整理事業環境影響評価準備書」(平成 24 年 6 月、仙台市荒井西土地地区画整理組合設立準備委員会) に係る注目すべき動物種を追加して把握した。その結果は表 4.1.4-18~24 に示すとおりであり、哺乳類 2 種、鳥類 79 種、爬虫類 3 種、両生類 6 種、昆虫類 72 種、魚類 12 種、底生動物 6 種が抽出された。

また、現地踏査の結果、事業計画地周辺で確認された注目種は表 4.1.4-25 に示すとおりであり、鳥類のチュウサギ、ミサゴなど 8 種、昆虫類のアオモンイトトンボ、コガムシ、マメハンミョウなど 15 種、魚類のメダカなど 2 種が確認された。

震災前後の状況は表 4.1.4-26 に示すとおりであり、確認種数は 180 種から 25 種に減少した。これは海岸林の減少といった震災影響が一部反映されているが、前記の動物相の状況と同様に、震災前後の調査範囲や調査時期が異なることに起因しており、双方を単純に比較することはできない。現地踏査で確認された注目すべき動物を見ると、水辺の生態系上位種であるチュウサギやミサゴ、陸域の生態系上位種であるオオタカ、水辺から湿地に生息するキベリアオゴミムシやヨツモンコミズギワゴミムシ、砂浜や河原に生息するオオハサミムシやクロキオビジョウカイモドキなどが継続して確認されたことから、それぞれの種の生息環境は維持もしくは回復しているものと考えられる。また、汽水環境でも生息可能なアオモンイトトンボやメダカも継続して確認された。今後、各分類群毎に秋季から初夏にかけて調査を行うため、確認種数は増加する可能性があることから、調査実施後に改めて比較を行うこととする。

表 4.1.4-17 注目すべき動物の選定基準

番号	選定基準
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号) に基づく天然記念物
②	「絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号) に基づく国内希少野生動植物
③	「日本の絶滅の恐れのある野生生物の種のリストーレッドリスト」(平成 24 年、環境省) の掲載種
④	「宮城県の希少な野生動植物ーレッドデータブック」(平成 13 年、宮城県) の掲載種
⑤	「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 16 年、仙台市) における学術上重要種、減少種のうち東部田園及び海浜における A ランクとされている種

表 4.1.4-18 注目すべき動物の状況：哺乳類

種名	①	②	③	④	⑤
ヒナコウモリ				VU	
カヤネズミ				要注目	
2 種	0 種	0 種	0 種	2 種	0 種

表 4.1.4-19(1/3) 注目すべき動物の状況：鳥類

種名	①	②	③	④	⑤
コアホウドリ			EN		
クロコシジロウミツバメ			CR	DD	
ヒメウ			EN		
チシマウガラス			CR		
サンカノゴイ			EN	NT	1

表 4.1.4-19(2/3) 注目すべき動物の状況：鳥類

種名	①	②	③	④	⑤
ヨシゴイ			NT		
オオヨシゴイ			CR	CR+EN	1
アマサギ					2
チュウサギ			NT	NT	1, 2, 4
コサギ					2
カラシラサギ			NT	DD	
ヘラサギ			DD	要注目	
クロツラヘラサギ			EN	要注目	
クロトキ			DD		
コクガン			VU	VU	1, 2, 4
マガン	○		NT	NT	1, 4
ヒシクイ	○		VU	NT	1, 4
アカツクシガモ			DD		
ツクシガモ			VU		
オシドリ			DD		
トモエガモ			VU		
アカハジロ			DD		
シノリガモ				LP	
ミサゴ			NT	NT	1, 4
ハチクマ				NT	1, 4
オジロワシ	○	○	VU	VU	1, 2, 4
オオワシ	○	○	VU	VU	1, 2, 4
オオタカ		○	NT	NT	1, 4
ツミ				DD	1, 4
ハイタカ			NT	NT	1, 4
サシバ			VU	VU	
イヌワシ	○	○	EN	CR+EN	1, 4
チュウヒ			EN	NT	
ハヤブサ		○	VU	NT	1, 4
チゴハヤブサ				要注目	1, 4
ウズラ			VU	CR+EN	1, 4, A
クイナ				要注目	
ヒメクイナ				要注目	
ヒクイナ			NT		
オオバン				要注目	1
タマシギ			VU		
シロチドリ			VU		
ケリ			DD	要注目	
ハマシギ			NT		
ヘラシギ			CR	NT	1
シベリアオオハシシギ			DD	DD	
ツルシギ			VU		
アカアシシギ			VU	NT	1
カラフトアオアシシギ			CR		
タカブシギ			VU		
オオソリハシシギ			VU		
ホウロクシギ			VU	NT	
オオジシギ			NT	NT	1, 4
セイタカシギ			VU		
ツバメチドリ			VU		

表 4.1.4-19(3/3) 注目すべき動物の状況：鳥類

種名	①	②	③	④	⑤
ズグロカモメ			VU	要注目	
オオアジサシ			VU		
コアジサシ			VU	VU	1, 2, 4
ウミガラス			CR		
ケイマフリ			VU		
マダラウミスズメ			DD		
ウミスズメ			CR		
ウトウ				CR+EN	
トラフズク				DD	1
コミミズク				要注目	1
オオコノハズク				DD	1
アオバズク				NT	
フクロウ				要注目	
ヨタカ			NT		
コシアカツバメ				要注目	
セグロセキレイ					4
サンショウクイ			VU	VU	1, 4
チゴモズ			CR	CR+EN	1, 4
アカモズ			EN	CR+EN	1, 4
ノビタキ				LP	
オオセッカ			EN	CR+EN	
コジュリン			VU	NT	
ホオアカ					1
ノジコ			NT	要注目	1
79 種	5 種	5 種	60 種	49 種	33 種

表 4.1.4-20 注目すべき動物の状況：爬虫類

種名	①	②	③	④	⑤
アカウミガメ			EN		
ニホンイシガメ			NT	DD	1, 4, A
クサガメ				DD	1
3 種	0 種	0 種	2 種	2 種	2 種

表 4.1.4-21 注目すべき動物の状況：両生類

種名	①	②	③	④	⑤
トウホクサンショウウオ			NT	NT	1, 4
クロサンショウウオ			NT	LP	4
アカハライモリ			NT		
ニホンアカガエル				NT	
トウキョウダルマガエル			NT	NT	
ツチガエル				NT	
6 種	0 種	0 種	4 種	5 種	2 種

表 4.1.4-22(1/3) 注目すべき動物の状況：昆虫類

種名	①	②	③	④	⑤
コバネアオイトトンボ			EN	CR+EN	
アオモンイトトンボ				VU	
ヒヌマイイトトンボ			EN	CR+EN	1, A

表 4.1.4-22 (2/3) 注目すべき動物の状況：昆虫類

種名	①	②	③	④	⑤
モートンイトトンボ			NT		
カラカネイトトンボ				CR+EN	
ムスジイトトンボ				CR+EN	
マダラヤンマ			NT	VU	
オオルリボシヤンマ				NT	
カトリヤンマ				NT	1
ヤブヤンマ				VU	
ウチワヤンマ				NT	1
チョウトンボ				VU	
キトンボ				VU	1
ハマベハサミムシ				NT	
オオハサミムシ				NT	
スズムシ				VU	1
ハマスズ				CR+EN	
ヤマトマダラバッタ				VU	2
カワラバッタ					1
スナヨコバイ			NT		
ヒメオオメナガカメムシ				NT	
コオイムシ			NT	NT	1, A
タガメ			VU	CR+EN	1, A
タイコウチ					1, A
オオウスバカゲロウ				CR+EN	
ルリハダホソクロバ			NT		
チャバネセセリ				要注目	
アサマイチモンジ				NT	
オオムラサキ			NT	NT	1
アオスジアゲハ					4
ツマキチョウ				NT	
ヒメシロチョウ			EN	CR+EN	
キアシマルガタゴミムシ				DD	
ヒメツヤマルガタゴミムシ				DD	
オオホシボシゴミムシ				DD	
ニッコウミズギワゴミムシ				VU	
エゾカタビロオサムシ				VU	
アカガネアオゴミムシ				DD	
キベリアオゴミムシ				DD	
オサムシモドキ				VU	
ヤマトトックリゴミムシ				DD	1
キンナガゴミムシ				NT	
ヒメホソナガゴミムシ				NT	
アシミゾナガゴミムシ				NT	
ヒョウタンゴミムシ				NT	
ヨツモンコミズギワゴミムシ				DD	
カワラハンミョウ			EN	CR+EN	1
クロゲンゴロウ			NT	VU	
ゲンゴロウ			VU	NT	1
マルガタゲンゴロウ			VU		
コケシガムシ				NT	
カラカネハマベエンマムシ				VU	
ハマベエンマムシ				VU	
アカウミベハネカクシ				NT	
アバタウミベハネカクシ				DD	

表 4.1.4-22 (3/3) 注目すべき動物の状況：昆虫類

種名	①	②	③	④	⑤
ウバタマムシ				DD	
タマムシ				CR+EN	
ゲンジボタル				要注目	1
ルリヒメジョウカイモドキ				要注目	
クロキオビジョウカイモドキ				要注目	
マメハンミョウ				DD	
ハマヒョウタンゴミムシダマシ				要注目	
ホソハマベゴミムシダマシ				要注目	
ヒメホソハマベゴミムシダマシ				要注目	
キボシカミキリ				要注目	
アオスジカミキリ				要注目	1, 2
ハマベクイゾウムシ				要注目	
トビイロヒョウタンゾウムシ				要注目	
ムツボシベッコウ			NT		
オオモンツチバチ				NT	
ニッポンハナダカバチ			VU	要注目	
キスジツチスガリ					1
72 種	0 種	0 種	16 種	63 種	18 種

表 4.1.4-23 注目すべき動物の状況：魚類

種名	①	②	③	④	⑤
スナヤツメ			VU	NT	1, A
ウナギ			DD		1
キンブナ			NT		
タナゴ			EN	VU	1
アカヒレタビラ			EN	CR+EN	1, A
シナイモツゴ			CR	CR+EN	1, EX
メダカ			VU	NT	1
シロウオ			VU	VU	
ヒモハゼ			NT		1
エドハゼ			VU	VU	1, 2
マサゴハゼ			VU		1, 2
アベハゼ					2
12 種	0 種	0 種	11 種	7 種	10 種

表 4.1.4-24 注目すべき動物の状況：底生動物

種名	①	②	③	④	⑤
ウミニナ			NT		
サザナミツボ			NT		
エドガワミズゴマツボ			NT		
モノアラガイ			NT		
マルガタゲンゴロウ			VU		
ヤマトゴマフガムシ				VU	
6種	0種	0種	5種	1種	0種

※表 4.1.4-18～24 の見出しの丸数字は表 4.1.4-17 に対応する。

【③④の凡例】

EX(絶滅)：既に絶滅したと考えられる種

CR+EN(絶滅危惧 I 類)：絶滅の危機に瀕している種

CR(絶滅危惧 IA 類)：ごく近い将来野生で絶滅の危険性が高いもの

EN(絶滅危惧 IB 類)：IA 類ほどではないが、近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの

VU(絶滅危惧 II 類)：絶滅の危険が増大している種

NT(準絶滅危惧)：存在基盤が脆弱な種

DD(情報不足)：評価するだけの情報が不足している種

要注目(要注目種)：現時点で普通に見られるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種

【⑤の凡例】

・学術上重要な植物種

1: 仙台市においてもともと希産あるいは希少である種、あるいは分布が限定されている種

2: 仙台市が分布の北限、南限となっている種、あるいは隔離分布となっている種

3: 仙台市が模式産地(タイプロカリティ)となっている種

4: その他、学術上重要な種

・減少種

A: 以前に比べて減少傾向にあるが、現在はほとんど見ることのできない種

資料：平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書(平成 23 年、仙台市)

平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書(平成 16 年、仙台市)

仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書(平成 14 年、宮城県)

国指定仙台海浜鳥獣保護区井土浦特別保護地区指定計画書(環境省案)(平成 18 年、環境省)

国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区指定計画書(環境省案)(平成 18 年、環境省)

井土浦ハゼ科魚類生息状況調査報告書(平成 23 年、株式会社エコリス)

(仮称)仙台市荒井南土地区画整理事業環境影響評価準備書(平成 24 年 5 月、仙台市荒井南土地区画整理組合設立準備委員会)

(仮称)仙台市荒井西土地区画整理事業環境影響評価準備書(平成 24 年 6 月、仙台市荒井西土地区画整理組合設立準備委員会)

表 4.1.4-25 注目すべき動物の状況：現地踏査

区分	種名	①	②	③	④	⑤
鳥類	アマサギ					2
	チュウサギ			NT	NT	1, 2, 4
	コサギ					2
	ミサゴ			NT	NT	1, 4
	オオタカ			NT	NT	1, 4
	ハヤブサ			VU	NT	1, 4
	オオバン				要注目	1
	セグロセキレイ					4
昆虫類	アオモンイトトンボ				VU	
	オオハサミムシ				NT	
	ヒメオオメナガカメムシ				NT	
	キバナガミズギワゴミムシ				DD	
	エゾカタビロオサムシ				VU	
	キベリアオゴミムシ				DD	
	キボシアオゴミムシ				DD	
	エチゴトックリゴミムシ			NT	DD	
	キンナガゴミムシ				NT	
	アシミズナガゴミムシ				NT	
	ヨツモンコミズギワゴミムシ				DD	
	コガムシ			DD		
	クロキオビジョウカイモドキ				要注目	
	マメハンミョウ				DD	
	オオモンツチバチ				NT	
魚類	ウナギ			DD		1
	メダカ			VU	NT	1
合計	25 種	0 種	0 種	8 種	20 種	10 種

※表 4.1.4-25 の見出しの丸数字は表 4.1.4-17 に対応する。

【③④の凡例】

EX(絶滅)：既に絶滅したと考えられる種

CR+EN(絶滅危惧 I 類)：絶滅の危機に瀕している種

CR(絶滅危惧 IA 類)：ごく近い将来野生で絶滅の危険性が高いもの

EN(絶滅危惧 IB 類)：IA 類ほどではないが、近い将来野生での絶滅の危険性が高いもの

VU(絶滅危惧 II 類)：絶滅の危険が増大している種

NT(準絶滅危惧)：存在基盤が脆弱な種

DD(情報不足)：評価するだけの情報が不足している種

要注目(要注目種)：現時点で普通に見られるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種

【⑤の凡例】

・学術上重要な植物種

1: 仙台市においてもともと希産あるいは希少である種、あるいは分布が限定されている種

2: 仙台市が分布の北限、南限となっている種、あるいは隔離分布となっている種

3: 仙台市が模式産地(タイプロカリティ)となっている種

4: その他、学術上重要な種

・減少種

A: 以前に比べて減少傾向にあるが、現在はほとんど見ることのできない種

表 4.1.4-26 震災前後の状況：注目すべき動物種

分類群	震災前(文献調査)	震災後(現地踏査)	増減
哺乳類	2	0	-2
鳥類	79	8	-71
爬虫類	3	0	-3
両生類	6	0	-6
昆虫類	72	15	-57
魚類	12	2	-10
底生動物	6	0	-6
合計	180 種	25 種	-155 種

### (3) 注目すべき生息地

注目すべき生息地については、「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年、仙台市）に示される動物生息地として重要な地域により把握した。

その結果は表 4.1.4-27 及び図 4.1.4-5 に示すとおりであり、蒲生干潟など 8 箇所が確認された。詳細は不明であるが、これらの多くは津波の影響を受けており、震災前の状況とは変わっている可能性がある。事業計画地は「低地の水田地帯」と重複する。

表 4.1.4-27 注目すべき生息地

番号	名称	対象	選定基準	内容
9	名取川・ 広瀬川中～ 下流域	鳥類	2, 7, 8	中流部は森林性から草地、水辺の鳥まで豊富。下流部は、オジロワシ、オオタカ等の猛禽類やキジ類の草地性鳥類。アオジの生息及び繁殖。
10	名取川河口	魚類	1, 4	塩分に比較的耐性がある河川下流の魚、周縁性淡水魚に加え、沿岸性の海魚が出現するため、魚類相が多様。
11	名取川 (下流域)	鳥類	1, 4, 8	河原のイカルチドリの生息・繁殖、オジロワシ等の猛禽類。アオジの生息及び繁殖。
12	七北田川 (中流域～ 河口)	哺乳類・ 鳥類	2, 8	川に接する地域の環境変化が著しく、動物の生息環境・移動経路としての重要性がとて大きくなってきている。
13	荒井の大沼	鳥類	4	マガン、その他水鳥の渡来地
14	低地の 水田地帯	鳥類	1, 7, 8	セッカの繁殖、ホオアカの繁殖。居久根は低地における鳥類の生息地及び移動のための中継地として重要。
15	福田町の田園	鳥類	5, 7	市街地に残されたまとまった広がり確保された田園生態系として重要。かつてはマガン、その他水鳥の渡来地としての利用もあった。
16	蒲生干潟	鳥類	1, 4, 5, 6, 8	シギ・チドリ類の渡りの中継地、コクガン渡来地。
17	井土浦	鳥類	1, 4, 5, 6, 8	シギ類渡来地
18	仙台湾海浜	哺乳類・ 鳥類・ 昆虫類	1, 4, 5, 6, 8	海岸林も含めて動物の生息及び移動経路として極めて重要になってきた。また、ヤマトマダラバッタ等の海浜性昆虫が生息。
19	貞山運河	潮間帯 動物	1, 2	多様な潮間帯動物の生息。

資料：平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 23 年、仙台市）



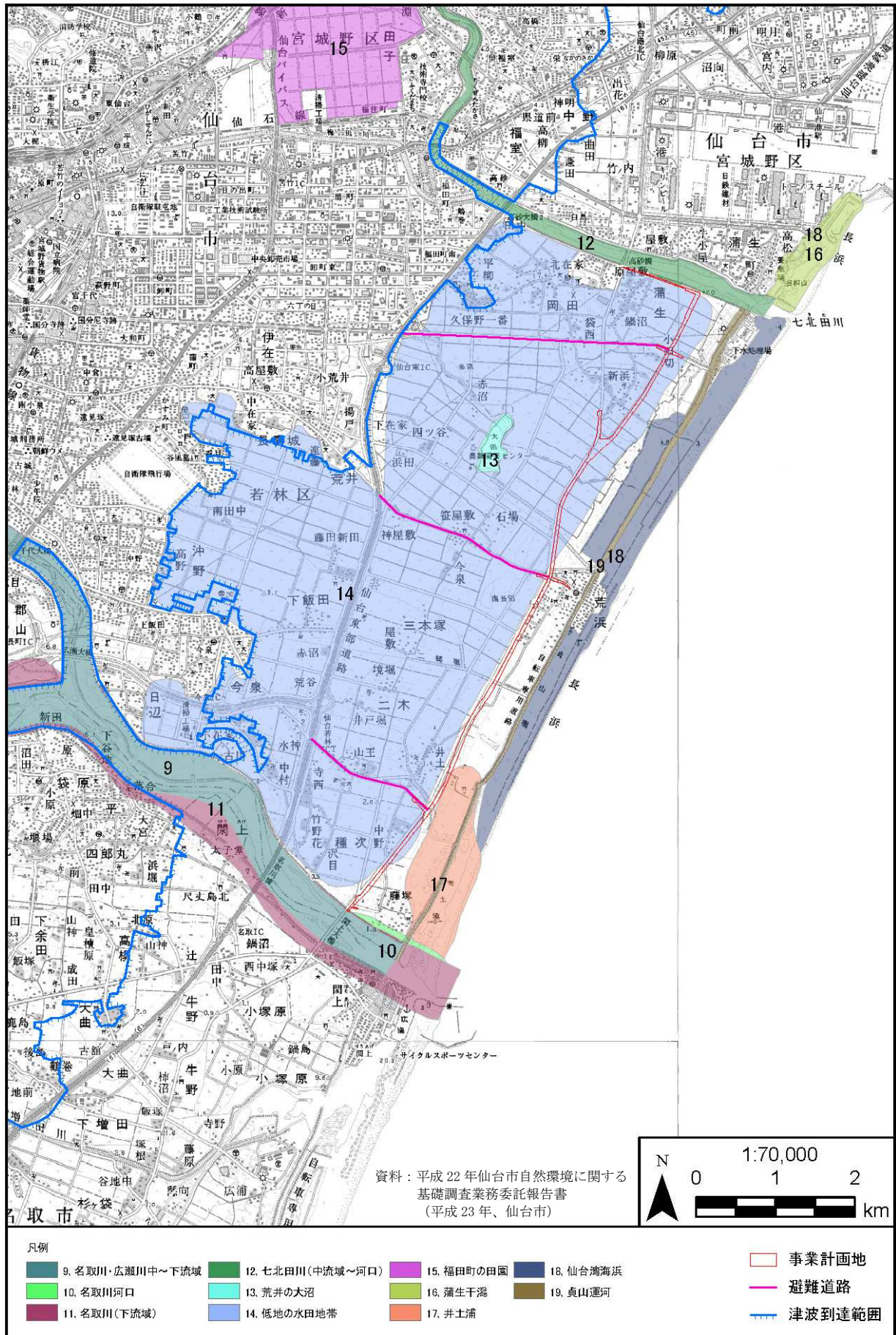


図 4.1.4-5 注目すべき生息地（動物生息地として重要な地域）

#### (4) 動物についての保全上の留意点

文献調査の結果、概況調査範囲では水辺環境に依存して生息する注目種が多く確認されている。また、事業計画地下流域には井土浦が存在しており、ここでも注目すべき動物が多く確認されている。現地踏査でも水辺環境に生息する注目種が確認されていることから、事業の実施にあたっては、水辺環境や下流域の水質保全に留意が必要である。また、事業計画地は注目すべき生息地である低地の水田地帯に係ることから、そこに生息するセッカやホオアカの生息環境である草地の保全に留意が必要である。さらにオオタカなどの猛禽類が現地踏査でも確認されていることから、それらの営巣環境や採餌環境の保全についても留意が必要である。

#### 4.1.5. 景観等

##### 1) 景観

###### (1) 自然的景観資源及び歴史的・文化的景観資源の状況

自然的景観資源及び歴史的・文化的景観資源の状況については、「平成 21 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 22 年、仙台市）、「仙台市の指定・登録文化財」（仙台市 HP）等の文献に基づいて把握した。また、下記の期日、範囲において現地踏査を行い、情報の補完、震災後の状況について把握した。

表 4.1.5-1 現地踏査実施状況

項目	期日	対象範囲
景観	平成 24 年 9 月 9 日～10 日	事業計画地から概ね 500m の範囲

概況調査範囲における自然的景観資源及び歴史的・文化的景観資源の分布状況は、表 4.1.5-2～5 及び図 4.1.5-1～2 に示すとおりである。

当地域は基本的に東から順に仙台湾、砂浜、クロマツ林、貞山堀、水田地帯という風景要素からなっており、水田地帯の中には集落や屋敷林（居久根）が島状に存在している。

地形・地質・自然現象や自然的景観資源は、大沼、赤沼、南長沼、井土浦、名取川・七北田川河口、仙台湾海岸にみられる。

歴史的・文化的景観資源としては、指定文化財等が存在するほか、寺社仏閣等もある。また、仙台平野の原風景である屋敷林（居久根）のある田園風景がみられる。

文献調査等によってこれらの景観資源の存在が明らかとなったが、東日本大震災の際の津波により多くの資源が被害を受けており、資源によっては震災前とは性質が大きく異なるものとなっている。現地踏査により把握した景観資源の被災跡の状況を表 4.1.5-6 に示す。

事業計画地は、ほとんどが農地及び道路であり景観資源はない。

表 4.1.5-2 学術上重要な地形・地質・自然現象

No.	件名	選定理由	保全の状況	概要
9	大沼、赤沼、南長沼	仙台平野の原風景を残す湖	—	仙台平野がかつて一面の谷地、沼地であった名残を残す池沼であった。現在、埋立、浚渫及び護岸の整備により、オニバスなど自然度の高い植生を伴っていた往時の面影は失われている。
10	井土浦・名取川河口・七北田川河口など	潟湖・河川干潟・砂浜海岸の典型例、かつ動植物の重要な生育地	仙台湾海浜県自然環境保全地域、国指定鳥獣保護区特別保護地区(井土浦)	潟湖、河口干潟、(近世の)運河などを伴う砂浜海岸。植生的にも、また、鳥類の生息地としても重要である。

資料：平成 21 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書（平成 22 年、仙台市）

表 4.1.5-3 自然景観資源

No.	名称	種類	概要	見られ方	インパクト	保全の状況
87	蒲生干潟	湖沼	分類：潟湖 面積48,000㎡ 湖岸線延長2,700m	近・中	人の立入り、道路開発、周辺の開発	仙台湾海浜県自然環境保全地域、国指定鳥獣保護区特別保護地区
88	井土浦	湖沼	分類：潟湖 面積270,000㎡ 水深1.4m 湖岸線延長4,900m 貞山堀の陸側には大規模なヨシ原。	近・中	人の立入り、道路開発、水辺の開発、周辺の開発、ゴミの投棄	仙台湾海浜県自然環境保全地域、国指定鳥獣保護区特別保護地区
89	南長沼	湖沼	分類：低地湖沼 面積20,000㎡ 水深0.8m 湖岸線延長900m 仙台平野の原形をとどめる湿地状の湖沼。浚渫、埋立てにより、自然景観資源としての損失が著しい。	近	人の立入り、農林業開発、道路開発、周辺の開発	—
90	大沼	湖沼	分類：低地湖沼 面積17,000㎡ 水深5.5m 標高2m 湖岸線延長2,200m 仙台平野の原形をとどめる湿地状の湖沼。浚渫、埋立てにより、自然景観資源としての損失が著しい。	近・中	人の立入り、農林業開発、道路開発、周辺の開発	—
94	仙台湾砂浜海岸(深沼海岸)	砂浜・磯浜	分類：砂浜 延長9.5km 巾60m 山元町から続く砂浜海岸の一部。名取川河口から七北田川河口まで。砂浜の内陸側には、クロマツ林、貞山堀がある。	近・中・遠	人の立入り、道路開発、水辺の開発、周辺の開発	仙台湾海浜県自然環境保全地域、国設鳥獣保護区
95	長浜	砂浜・磯浜	分類：砂浜 延長1.9km 巾30m 山元町から続く砂浜海岸の一部。七北田川河口より北。内陸側には、蒲生干潟がある。	近・中・遠	人の立入り、道路開発、水辺の開発、周辺の開発	仙台湾海浜県自然環境保全地域、国設鳥獣保護区
201	広浦	湖沼	分類：潟湖 南部に大規模なヨシ原が広がる。	近・中	人の立入り、道路開発、水辺の開発、周辺の開発	仙台湾海浜県自然環境保全地域

資料：平成 21 年度自然環境基礎調査報告書（平成 22 年、仙台市）  
現地踏査

表 4.1.5-4(1/2) 文献調査により把握した歴史的・文化的景観資源

No.	名称	種別区分	指定区分	所在地	解説
3	陸奥国分寺薬師堂 附 厨子1基・棟札1枚	建造物	国指定	若林区木ノ下3丁目8-1	陸奥国分寺薬師堂は、慶長12年（1607）、伊達政宗によって造営された。入母屋造、本瓦葺、素木造の桃山様式建築物である。なお、この薬師堂は奈良時代に建立された、陸奥国分寺跡にある。
5	陸奥国分寺跡	史跡	国指定	若林区木ノ下2丁目、3丁目	奈良時代の天平13年（741）、聖武天皇の命により、全国に建立された国分寺のひとつ。発掘調査の結果、講堂、金堂、七重塔など、14以上の建物を配する壮大な伽藍を持っていたことが分かっている。
6	陸奥国分尼寺跡	史跡	国指定	若林区白萩町	奈良時代の天平13年（741）、聖武天皇の命により、国分寺とともに、全国に建立された尼寺のひとつ。発掘調査により、金堂と推定される建物跡が見つかっている。
8	遠見塚古墳	史跡	国指定	若林区遠見塚1丁目ほか	仙台市内で最大の前方後円墳。県内でも名取市の雷神山古墳に次ぐ規模の大型古墳である。全長約110m。発掘調査では、ふたつの木棺が確認されている。構造や遺物から、古墳時代、4世紀末頃に造られたものとみられている。
15	苦竹のイチヨウ	天然記念物	国指定	宮城野区銀杏町7-36	樹齢約1000年といわれるイチヨウの巨木。幹から気根という根が乳房のように垂れていることから、乳銀杏ともよばれている。木の下に祀られる姥神にお参りすると乳の出がよくなるといわれ、現在でも祈願の対象となっている。
16	朝鮮ウメ	天然記念物	国指定	若林区古城2丁目	ウメの変種。臥龍梅。樹齢は約360年とみられている。この梅は伊達政宗が、文禄2年（1593）に朝鮮半島から持ち帰ったものと伝えられている。

表 4.1.5-4(2/2) 文献調査により把握した歴史的・文化的景観資源

No.	名称	種別区分	指定区分	所在地	解説
20	白山神社本殿	建造物	県指定	若林区木ノ下3丁目9-1	白山神社はじめ陸奥国分寺の守り神であつたと伝えられるが、現在の本殿は江戸時代の寛永17年(1640)に再建されたものである。一間社流造こけら葺で、流れるような美しい形に、江戸時代初期のすぐれた技法がみられる。
28	陸奥国分寺薬師堂仁王門	建造物	県指定	若林区木ノ下3丁目8-1	この門は江戸時代、慶長12年(1607)の、薬師堂の創建にあわせて建立されたものと伝えている。入母屋造茅葺の八脚門で、左右には寺の守り神の仁王として、一对の金剛力士像が安置されている。
24	落合観音堂 附棟札1枚	建造物	県指定	太白区四郎丸字落合60	落合観音堂は、はじめ太白区袋原にあったが、江戸時代の寛永4年(1627)、伊達政宗が落合に移し、さらに昭和26年(1951)に現在地に移転した。素木造で屋根は入母屋造茅葺となっている。
33	善応寺開山堂	建造物	市指定	宮城野区燕沢2丁目3-1	善応寺開山堂は、11尺四方、棧瓦葺、宝形造の建築物で、通玄禅師の坐像と位牌を祀っている。内部には墓石と厨子があり、上部に仙台藩四代藩主伊達綱村筆の扁額がかけられている。
51	善応寺横穴古墳群	史跡	市指定	宮城野区燕沢2丁目3-1	宮城野区燕沢の善応寺裏山一帯に分布する、7世紀後半から8世紀前半にかけての横穴墓群。昭和23年(1948)から5次にわたって発掘調査が行われており、埋没しているもの含めると総数は百基を超えるものと推定される。出土遺物には土師器、須恵器のほか勾玉などがある。
101	洞口家住宅	建造物	国指定	名取市大曲字中小路26	主屋、馬屋、表門の3棟から成り、堀といぐねをめぐらした環濠集落。江戸時代中期宝暦年間の建築。名取型として旧仙台領内最大規模の古民家。
102	東光寺石造宝篋印塔	建造物	名取市指定	名取市下増田字丁地233	高さ234cm、江戸中期(寛延4年、1751年)の石造建造物。
103	開運橋	建造物	名取市登録	名取市関上2・3丁目	昭和3年に貞山運河にかけられた橋。
104	関上土手の松並	天然記念物	名取市登録	名取市関上字柳原上他	関上字新大塚付近一帯の名取川右岸堤防沿いの松並。

資料：仙台市の指定・登録文化財(仙台市HP)

表 4.1.5-5 現地踏査により把握した歴史的・文化的景観資源

No.	名称	種類	所在地
1	天照大神宮	神社	宮城野区蒲生字八郎兵衛第一 25
2	吉窪神社	神社	宮城野区岡田字浜通 29
3	照徳寺	寺	宮城野区岡田字浜通 36
4	湯殿山神社	神社	若林区荒井笹屋敷 135
5	長樂院不動尊	不動尊	若林区荒井笹屋敷 156
6	湊神社	神社	若林区荒浜新堀端
7	浄土寺	寺	若林区荒浜字西 20
8	神明社	神社	若林区荒浜神明林
9	東日本大震災慰霊乃塔	慰霊碑	若林区荒浜字中丁
10	八大龍王	神社	若林区荒浜字中丁 36-33
11	海楽寺	寺	若林区井土字宅地 19
12	日吉神社	神社	若林区二木字山王 23
13	東禅院	寺	若林区種次字寺西 62
14	五柱神社	神社	若林区藤塚字屋敷 51

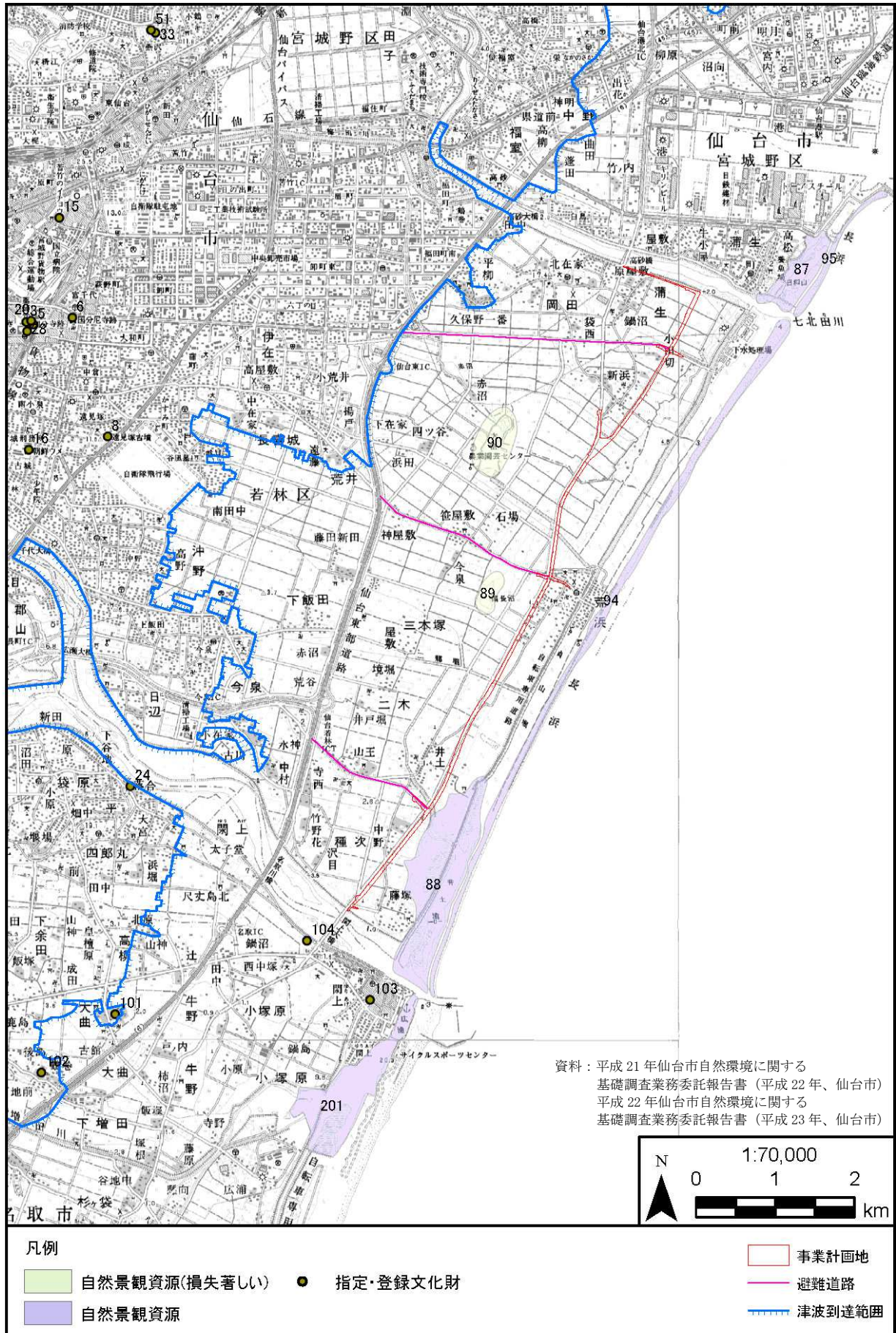


図 4.1.5-1 文献調査により把握した景観資源

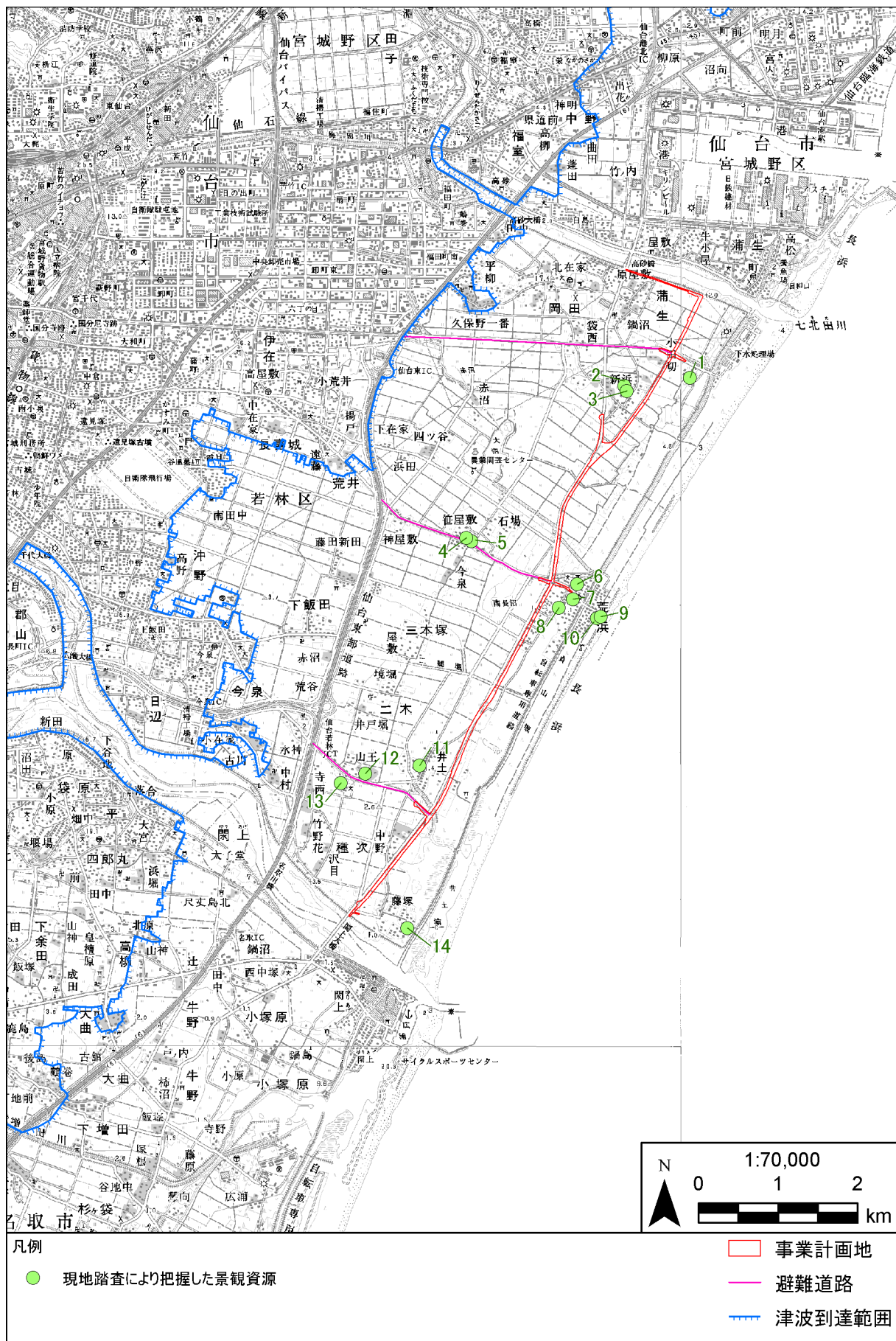


図 4.1.5-2 現地踏査により把握した景観資源

(2) その他の環境資源

仙台市が策定した平成6年度自然環境基礎調査報告書（平成7年3月）では、地域の歴史・文化を背景とした資源の分布について、市内の中学校区単位で「家のそばで将来まで残したいもの・大切にしたいもの」についてアンケート調査が実施されている。

その結果は、表4.1.5-6に示すとおりである。

表4.1.5-6 家のそばで将来まで残したいもの・大切にしたいもの

区	中学校名	残したいもの・大切にしたいもの
宮城野	高砂	蒲生干潟
	田子	田園風景、七北田川
若林	六郷	田園風景、貞山堀、広瀬川
	七郷	深沼海岸（松林含む）
	沖野	広瀬川、田園風景
太白	袋原	落合観音、名取川

資料：平成6年度自然環境基礎調査報告書（平成7年、仙台市）

(3) 眺望の状況

概況調査範囲における眺望は、事業計画地の西側は仙台平野の代表的な田園景観が広がっているのに対し、東側は松林と後背の海岸景観が南北に続いている。

事業計画地を望む主な眺望地点としては、表4.1.5-7及び図4.1.5-3に示すとおりである。なお、東日本大震災の影響を受け、事業計画地を眺望できる仙台東部道路以東の公共施設は、農業園芸センター及び冒険広場（平成23年度に数回臨時開園あり）を除き利用されていない。

表4.1.5-7 主な眺望地点

区分	No.	地点の名称
公園・レクリエーション施設	1	海岸公園
	2	農業園芸センター
	3	貞山堀（自転車道）
	4	深沼海水浴場
	5	冒険広場
	6	井土浦
既存集落	7	原屋敷集落
	8	新浜集落
	9	荒浜集落
	10	井土集落
	11	中野集落
	12	藤塚集落



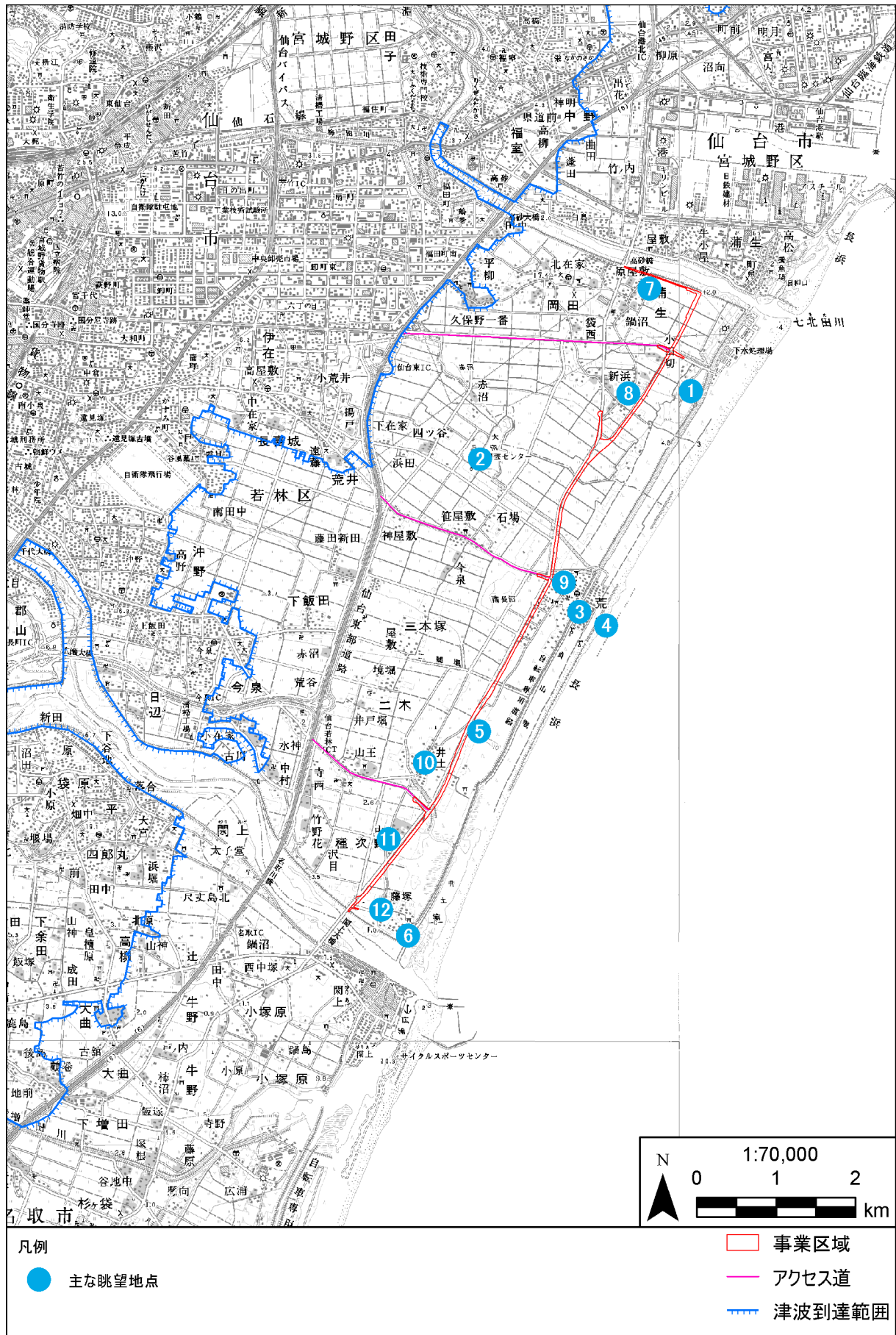


図 4.1.5-3 主な眺望地点

#### (4) 震災後の状況

概況調査範囲においては、震災の影響により、地形・地質・自然現象や自然的景観資源は津波により浸水したが、概ね震災前の形状に回復しつつある。歴史的・文化的景観資源をみると、陸奥国分寺跡では石灯籠 1 基を残して倒壊、遠見塚古墳では後円部の主体部約 4 m<sup>2</sup>が 10cm 位陥没、名取市では開運橋が崩落した。

また、事業計画地を眺望できる仙台東部道路以東の公共施設は農業園芸センター及び冒険広場（平成 23 年度に数回臨時開園あり）を除き利用されていない。

現地踏査によって明らかになった景観資源の状況については表 4.1.5-8 に示す。

表 4.1.5-8(1/3) 現地踏査により明らかになった景観資源の状況

名称	写真（2012年9月9～10日撮影）	資源の状況
仙台湾砂浜海岸 (深沼海岸)		砂浜に隣接して存在していたクロマツ林の大部分が消失している。一部が島状の森林として現在も残されている。震災前の仙台湾には、白砂青松の景観が形成されていたが、クロマツ林が大部分で消失したことにより、景観の性質も大きく異なるものとなっている。
天照皇大神宮		社殿が全壊し、土台のみが残された状態となっている。社寺林の被害を受け、樹木が減少している。境内に植栽されていたと思われるツツジ等の低木類も枯死しており、震災前とは大きく異なる景観となっている。
吉窪神社		神社の建造物類は全壊し、鳥居のみが残されている状態であり、震災前とは大きく異なる景観となっている。 神社があった場所には新たに基礎が造られており、神社の再建が進められているものと思われる。
照徳寺		吉窪神社に隣接した寺であるが、建造物は残されている（被害を受けた形跡はあるが、修繕されている）。また、保存樹木であるイチョウの大木も残されているが、夏季であっても葉がついている枝が少なく衰弱しているため、回復のための処置をしているとのことである。

表 4.1.5-8(2/3) 現地踏査により明らかになった景観資源の状況

名称	写真 (2012年9月9~10日撮影)	資源の状況
湯殿山神社		<p>津波が到達した範囲内であるが、外見上は目立った被害は見られない。</p>
長楽院不動尊		<p>津波が到達した範囲内であるが、外見上は目立った被害は見られない。</p>
湊神社		<p>社殿が全壊し、参道の痕跡や土台のみが残されている。境内の樹木も残されておらず、雑草が繁茂し、震災前とは大きく異なる景観となっている。</p>
浄土寺		<p>本来の社殿は損壊し、現在は仮設の社殿が設置されている。境内の樹木は全て失われており、震災前とは大きく異なる景観となっている。仮設の社殿が設置されていることから、今後、復旧されるものと思われる。</p>
神明社		<p>社殿は全壊し、土台のみが残されている。境内の樹木は全て失われており、石碑類は周囲に散乱している。雑草も繁茂し、震災前とは大きく異なる景観となっている。</p>
東日本大震災慰霊乃塔		<p>深沼海水浴場の入口付近に設置された慰霊碑であり、震災後に設置されたものである。現在は多くの人が訪れる場所となっている。</p>

表 4.1.5-8(3/3) 現地踏査により明らかになった景観資源の状況

名称	写真 (2012年9月9~10日撮影)	資源の状況
八大龍王		海から近いいため津波の被害も大きかったものと考えられ、鳥居のみが残されている。震災前とは大きく異なる景観となっている。
海楽寺		井土集落の住宅地内にある寺であり、建物は残されているものの、大きな被害を受けている。
日吉神社		社殿は残されているが、境内の樹木の多くが失われ、震災前とは大きく異なる景観となっている。
東禅院		津波が到達した範囲内であるが、外見上は目立った被害は見られない。
五柱神社		社殿は全壊し、土台と参道のみが残されている。周囲には雑草が繁茂し、震災前とは大きく異なる景観となっている。

(5) 景観保全上の留意点

事業計画地周辺には、仙台平野の代表的な田園景観が広がっているため、法面等について可能な範囲で緑化を行い、田園景観との調和に留意する。

## 2) 自然との触れ合いの場

### (1) 自然との触れ合いの場の状況

自然との触れ合いの場の状況については、宮城県土地利用規制図、宮城県土地利用基本計画図、仙台市公園・緑地等配置図等の文献に基づいて把握した。また、下記の期日、範囲において現地踏査を行い、情報の補完、震災後の状況について把握した。

表 4.1.5-9 現地踏査実施状況

項目	期日	対象範囲
自然との触れ合いの場	平成 24 年 9 月 9 日～10 日	事業計画地から概ね 500m の範囲

#### a) 地域性緑地

概況調査範囲には表 4.1.5-10 及び図 4.1.5-4 に示すとおり、県自然環境保全地域、広域公園等の地域性緑地（法令に基づくもの）が指定されている。

表 4.1.5-10 地域性緑地（法令に基づくもの）

区分	名称	面積等
県自然環境保全地域	仙台湾海浜県自然環境保全地域	1,507.7ha
広域公園	海岸公園	511.2ha

資料：宮城県土地利用規制図、宮城県土地利用基本計画図、仙台市公園・緑地等配置図

#### b) 海辺、河川、湖沼との親水

概況調査範囲には図 4.1.5-4 に示すとおり仙台市内唯一の海水浴場である深沼海水浴場がある。また、七北田川から名取川にかけての海岸沿いには、仙台自然休養林（160.93ha）が整備されており、市民の身近な緑、自然観察の場として利用されている。

河川との親水事業としては、表 4.1.5-11 に示すとおり、広瀬川において国土交通省による名取川直轄総合水系環境整備事業が行われている。

湖沼では、大沼が親水性の高い水辺整備が行われているほか、赤沼は釣り等に利用されている。

表 4.1.5-11 河川との親水事業

事業名	地区／事業内容	年次	事業概要
名取川直轄総合水系環境整備事業	広瀬川地区 水環境整備	平成12年度 ～15年度	導水施設（取水ポンプ場）、流量観測施設の設置
	広瀬川地区 利用促進	平成17年度 ～21年度	親水護岸の整備、アクセス施設整備（階段・スロープ）

資料：国土交通省東北地方整備局資料

### c) 緑との触れ合い

概況調査範囲には、図 4.1.5-4 に示すとおり大沼に隣接して仙台市農業園芸センターがある。事業概要は表 4.1.5-12 に示すとおりである。

表 4.1.5-12 仙台市農業園芸センターの事業概要

項目	内容
開園年月日	平成元年6月
総面積	106,986㎡（うち、市民農園面積23,745㎡）
開園時間	午前9時から午後4時45分まで
事業内容	農業振興事業、市民園芸の啓発普及事業、農業交流事業 農業及び園芸の試験及び研究に関する事業、農業及び園芸の技術及び経営の指導に関する事業など
各種講座	市民農業講座、老壮園芸学園、農業サポーター養成講座、農業者実践セミナー、地産地消推進サポーター
主な催し物	梅を観る会、春の草花まつり、バラまつり、秋バラ鑑賞会、収穫まつり、サマー・ウインター・フェスティバル、旬の香り市など

資料：仙台市農業園芸センターHP

### d) その他

概況調査範囲には、七北田川から貞山堀に沿って一般県道仙台亘理自転車道線（仙台市宮城野区岩切～亘理町沖、43.4 km）が整備されている。また、名取市閑上には、サイクルスポーツセンターと閑上海浜プールが整備されている。

### e) 公園

概況調査範囲には、表 4.1.5-13 及び図 4.1.5-5 に示すとおり、市街地や集落に公園が整備されており、市民の身近な自然との触れ合いの場となっている。

事業計画地に近接して、海岸公園（センター施設、野球場・庭球場、運動広場・パークゴルフ場、冒険広場、乗馬場等）や荒浜集落の街区公園が位置している。



図 4.1.5-4 自然との触れ合いの場

表 4.1.5-13(1/4) 公園一覽

番号	名称	住所	番号	名称	住所
1	燕沢二丁目緑地	仙台市宮城野区燕沢二丁目16	527	館西6号公園	仙台市若林区沖野七丁目578-6
8	福室上町東公園	仙台市宮城野区福室五丁目220-1外	528	卸町東一丁目公園	仙台市若林区卸町東一丁目1005-3
9	中野北上公園	仙台市宮城野区中野字北上44-3	529	六丁の目南町公園	仙台市若林区六丁の目南町6-2
13	福室公園	仙台市宮城野区福室五丁目601-70	530	遠見塚一丁目5号公園	仙台市若林区遠見塚一丁目249-24
16	燕沢一丁目公園	仙台市宮城野区燕沢一丁目391	531	大和町一丁目東公園	仙台市若林区大和町一丁目114-30外
29	田子二丁目公園	仙台市宮城野区田子二丁目40-1	532	六丁の目北町公園	仙台市若林区六丁の目北町9-3
30	田子二丁目北公園	仙台市宮城野区田子二丁目6-4	533	館南7号公園	仙台市若林区沖野七丁目275-11
31	福室上町北公園	仙台市宮城野区福室六丁目29-1	534	門暮10号公園	仙台市若林区今泉一丁目45-9
34	燕沢東二丁目公園	仙台市宮城野区燕沢東二丁目66-3	535	館南6号公園	仙台市若林区沖野六丁目302-14
35	小鶴一丁目北公園	仙台市宮城野区小鶴一丁目203-15外	536	河原下9号公園	仙台市若林区沖野六丁目10-30
36	栄五丁目公園	仙台市宮城野区栄五丁目15	537	白萩西公園	仙台市若林区白萩町263
37	燕沢二丁目公園	仙台市宮城野区燕沢二丁目6-27	538	河原下7号公園	仙台市若林区沖野六丁目2-5
38	出花二丁目公園	仙台市宮城野区出花二丁目7-9	539	大和町二丁目公園	仙台市若林区大和町二丁目53-2
39	福室上町南公園	仙台市宮城野区福室三丁目9-2	540	下飯田築道公園	仙台市若林区六郷103-6外
41	栄一丁目公園	仙台市宮城野区栄一丁目85-3	542	荒井土才敷公園	仙台市若林区荒井字土才敷13-3
46	上田子2号公園	仙台市宮城野区田子三丁目507	543	上飯田遠西2号公園	仙台市若林区上飯田一丁目76-2
47	田子要害東公園	仙台市宮城野区田子一丁目252-1	544	館西5号公園	仙台市若林区沖野二丁目36-7
50	燕沢三丁目公園	仙台市宮城野区燕沢三丁目66-75	545	河原下3号公園	仙台市若林区沖野七丁目131-17
52	田子小原公園	仙台市宮城野区田子三丁目111-4	546	館南9号公園	仙台市若林区沖野六丁目281-13
56	福室境公園	仙台市宮城野区福室七丁目1-42	547	六丁の目中町西公園	仙台市若林区六丁の目中町9-1
62	出花西公園	仙台市宮城野区栄四丁目10-7	548	門暮8号公園	仙台市若林区今泉一丁目132-10外
63	栄東公園	仙台市宮城野区栄四丁目20-5	549	遠見塚二丁目3号公園	仙台市若林区遠見塚二丁目404-11
64	宿在家公園	仙台市宮城野区栄三丁目5-8	551	遠見塚二丁目公園	仙台市若林区遠見塚二丁目241-4
65	福在公園	仙台市宮城野区栄二丁目7-6	552	新神柵公園	仙台市若林区沖野二丁目265-5
69	栄公園	仙台市宮城野区栄四丁目4-1	553	館南4号公園	仙台市若林区沖野七丁目241-48
71	福室寺前公園	仙台市宮城野区福室五丁目36-9	554	木ノ下公園	仙台市若林区木ノ下二丁目69
72	吉ヶ沢東公園	仙台市宮城野区燕沢東二丁目62-31	555	門暮7号公園	仙台市若林区今泉一丁目86-39
82	鶴ヶ谷八丁目公園	仙台市宮城野区鶴ヶ谷八丁目6	556	中柵東7号公園	仙台市若林区沖野三丁目91-5
83	鶴ヶ谷七丁目南公園	仙台市宮城野区鶴ヶ谷七丁目8	557	館西4号公園	仙台市若林区沖野二丁目25-4
84	屋舗公園	仙台市宮城野区新田三丁目49-2外	558	中柵東6号公園	仙台市若林区沖野三丁目69-7
86	西田公園	仙台市宮城野区新田三丁目261-1外	559	中柵東5号公園	仙台市若林区沖野七丁目134-2
206	安養寺三丁目公園	仙台市宮城野区安養寺三丁目20-32	560	河原下6号公園	仙台市若林区沖野六丁目44.6
208	東仙台六丁目公園	仙台市宮城野区東仙台六丁目158-27	561	中柵東4号公園	仙台市若林区沖野七丁目54-6
214	安養寺下東公園	仙台市宮城野区東仙台七丁目7-133	562	門暮6号公園	仙台市若林区今泉一丁目12-19
215	安養寺下西公園	仙台市宮城野区東仙台七丁目7-183	563	門暮5号公園	仙台市若林区今泉一丁目50-5
221	鶴ヶ谷一丁目東公園	仙台市宮城野区鶴ヶ谷一丁目10	564	大和町五丁目公園	仙台市若林区大和町五丁目52-9
511	銀杏町緑地	仙台市宮城野区銀杏町723	565	河原下5号公園	仙台市若林区沖野六丁目18-6
512	高砂二丁目緑地	仙台市宮城野区高砂二丁目26-2	566	河原下4号公園	仙台市若林区沖野六丁目96-6
513	伊勢公園	仙台市若林区荒浜新一丁目4	567	中倉二丁目公園	仙台市若林区中倉二丁目201-9
515	遠見塚一丁目4号公園	仙台市若林区遠見塚一丁目230-8	568	館西3号公園	仙台市若林区沖野二丁目48-14
516	沖野二丁目公園	仙台市若林区沖野二丁目123-8	569	中柵東3号公園	仙台市若林区沖野三丁目152-10
517	遠見塚二丁目2号公園	仙台市若林区遠見塚二丁目226-11	570	館西2号公園	仙台市若林区沖野二丁目82-10
518	遠見塚一丁目3号公園	仙台市若林区遠見塚一丁目18-4	571	白萩公園	仙台市若林区白萩町62
519	館南8号公園	仙台市若林区沖野六丁目295-17	572	尼坪公園	仙台市若林区大和町三丁目18-1
520	沖野一丁目公園	仙台市若林区沖野一丁目415-24	573	牛路公園	仙台市若林区大和町四丁目506-1
521	遠見塚一丁目2号公園	仙台市若林区遠見塚一丁目20-7	574	柳公園	仙台市若林区大和町三丁目6
522	遠見塚一丁目公園	仙台市若林区遠見塚一丁目234-9	575	松木公園	仙台市若林区大和町五丁目804-2
523	六丁の目中町公園	仙台市若林区六丁の目中町29-1	576	門暮1号公園	仙台市若林区今泉一丁目139-3
524	四本松公園	仙台市若林区荒浜新二丁目9-1	577	若林五丁目公園	仙台市若林区若林五丁目32-16
526	中柵東8号公園	仙台市若林区沖野三丁目73-13	578	門暮4号公園	仙台市若林区今泉一丁目64-2外



表 4.1.5-13(2/4) 公園一覽

番号	名称	住所	番号	名称	住所
579	一本杉町公園	仙台市若林区一本杉町317-21	634	福室半在家公園	仙台市宮城野区福室三丁目407-3外
580	中櫛東1号公園	仙台市若林区沖野七丁目147-2	635	田中東一番公園	仙台市宮城野区福室字田中東一番14-8
581	河原下2号公園	仙台市若林区沖野六丁目125-2	636	田中前二番公園	仙台市宮城野区福室字田中前二番1-12
582	河原下1号公園	仙台市若林区沖野六丁目50-3	637	中野2号公園	仙台市宮城野区中野字牛小舎23-74外
583	籬西1号公園	仙台市若林区沖野二丁目53-2	638	鶴巻一丁目東公園	仙台市宮城野区鶴巻一丁目1006-1
584	籬南1号公園	仙台市若林区沖野六丁目326-11	639	鶴巻一丁目西公園	仙台市宮城野区鶴巻一丁目1010-1
585	大和町一丁目南公園	仙台市若林区大和町一丁目205-32	641	仙石南公園	仙台市宮城野区仙石89-16
586	大和町一丁目北公園	仙台市若林区大和町一丁目240-6	642	原町四丁目公園	仙台市宮城野区原町四丁目146-9
587	三寿美田公園	仙台市若林区中倉三丁目109-8	643	仙石西公園	仙台市宮城野区小鶴字仙石58-22
588	御休場南公園	仙台市若林区若林六丁目36-9	644	出花一丁目公園	仙台市宮城野区出花一丁目12-4
589	門暮3号公園	仙台市若林区今泉一丁目75-4	645	東仙台三丁目公園	仙台市宮城野区東仙台三丁目232-5
590	今泉二丁目2号公園	仙台市若林区今泉二丁目28-10	646	平成一丁目南公園	仙台市宮城野区平成一丁目34-8
591	上飯田三丁目公園	仙台市若林区上飯田三丁目57-22	647	蒲生土手前3号公園	仙台市宮城野区白鳥一丁目15-6
592	今泉一丁目西公園	仙台市若林区今泉一丁目351-25	648	中野向田公園	仙台市宮城野区白鳥一丁目177-1外
593	内手東公園	仙台市太白区袋原字内手10-2	649	港南東公園	仙台市宮城野区蒲生字南城道田5-4外
594	法地北公園	仙台市太白区中田町字法地北24-20	650	港南西公園	仙台市宮城野区蒲生字南屋ヶ城1-27外
595	広瀬川飯田緑地	仙台市太白区飯田字河原95-1外	651	高砂一丁目西公園	仙台市宮城野区高砂一丁目18-8
596	土手畑7号公園	仙台市若林区上飯田二丁目59	652	白鳥一丁目公園	仙台市宮城野区白鳥一丁目265-3外
597	沖野二丁目東公園	仙台市若林区沖野二丁目85-16	654	平成一丁目公園	仙台市宮城野区平成一丁目581-89
598	広瀬川若林緑地	仙台市若林区若林地先	655	蒲生町公園	仙台市宮城野区蒲生字町12-12
600	中田東公園	仙台市太白区中田町字東59-29	656	幸町三丁目公園	仙台市宮城野区幸町三丁目505-24
602	遠見塚東公園	仙台市若林区遠見塚東169-5	657	蒲生西屋敷添公園	仙台市宮城野区蒲生字西屋敷添3-1
604	法地南緑地	仙台市太白区中田町字法地南3-6	658	原町カックウ公園	仙台市宮城野区原町二丁目37-2外
605	荒浜新緑地	仙台市若林区荒浜新二丁目20-7	659	高砂二丁目向田公園	仙台市宮城野区高砂二丁目8-3
606	大和町五丁目緑地	仙台市若林区大和町五丁目701-6	661	原前2号公園	仙台市太白区袋原三丁目36-55
608	南宮城野公園	仙台市宮城野区宮千代一丁目36-1	663	吹上2号公園	仙台市太白区四郎丸字吹上28-26
609	宮千代公園	仙台市宮城野区宮千代一丁目9-1	664	中田土手内公園	仙台市太白区中田町字土手内59-2
610	志波北公園	仙台市宮城野区萩野町二丁目7-1	665	寺浦2号公園	仙台市太白区中田町字寺浦33-2
611	清水田公園	仙台市宮城野区萩野町三丁目6-1	666	内手公園	仙台市太白区袋原字内手62-7
612	谷地館公園	仙台市宮城野区宮千代三丁目3	668	吹上3号公園	仙台市太白区四郎丸字吹上31-15外
613	萩野町公園	仙台市宮城野区萩野町三丁目10	669	四郎丸神明2号公園	仙台市太白区四郎丸字神明19-13
614	新田公園	仙台市宮城野区新田四丁目12	670	南首長公園	仙台市太白区中田町字南首長104-2
615	福住町公園	仙台市宮城野区福住町9-2	672	袋原台東公園	仙台市太白区袋原四丁目42-6
616	町浦公園	仙台市宮城野区福田町二丁目365	673	四郎丸神明3号公園	仙台市太白区四郎丸字神明27-5
617	小鶴公園	仙台市宮城野区新田四丁目25	674	法地南公園	仙台市太白区中田町字法地南27-9外
618	川北公園	仙台市宮城野区新田5丁目9	675	四郎丸戸ノ内公園	仙台市太白区四郎丸字戸ノ内10-17
619	耳取公園	仙台市宮城野区白鳥二丁目528	676	袋原北中江公園	仙台市太白区袋原三丁目34-3
620	高砂駅西公園	仙台市宮城野区福室二丁目7-8外	677	四郎丸大宮公園	仙台市太白区四郎丸字大宮1-33
621	中野公園	仙台市宮城野区中野字牛小舎25-26	678	袋原下谷地西公園	仙台市太白区袋原字下谷地128-17
622	高砂公園	仙台市宮城野区福室一丁目46-17外	679	四郎丸神明4号公園	仙台市太白区四郎丸字神明85-6
623	福田町四丁目公園	仙台市宮城野区福田町四丁目5-1	680	四郎丸昭和裏公園	仙台市太白区四郎丸字昭和裏35-4外
625	耳取2号公園	仙台市宮城野区白鳥二丁目96-11	681	四郎丸昭和裏2号公園	仙台市太白区四郎丸字昭和裏23-3外
626	海道下公園	仙台市宮城野区東仙台三丁目120-6外	683	小平2号公園	仙台市太白区袋原六丁目42-22
627	原町六丁目公園	仙台市宮城野区原町六丁目70-20	684	四郎丸戸ノ内2号公園	仙台市太白区四郎丸字戸ノ内93-11外
628	宮千代西公園	仙台市宮城野区宮千代一丁目22-5	685	前沖4号公園	仙台市太白区中田町字前沖213-28
629	西原西公園	仙台市宮城野区蒲生一丁目12	686	渡道東公園	仙台市太白区四郎丸字渡道56-3外
630	福田町砂押公園	仙台市宮城野区福田町二丁目1224	688	平瀬南公園	仙台市太白区袋原字平瀬4-18
631	蒲生土手前公園	仙台市宮城野区白鳥一丁目109-01	689	中田境公園	仙台市太白区中田字境45-15
632	蒲生土手前2号公園	仙台市宮城野区白鳥一丁目5-2外	690	渡道北公園	仙台市太白区四郎丸字渡道24-9
633	蒲生蓬田前公園	仙台市宮城野区白鳥一丁目560-6	692	四郎丸戸ノ内3号公園	仙台市太白区四郎丸字戸ノ内93-46

表 4.1.5-13(3/4) 公園一覽

番号	名称	住所	番号	名称	住所
693	四郎丸落合公園	仙台市太白区四郎丸字落合1-52	746	昭和中公園	仙台市太白区四郎丸字昭和中78-12
694	吹上1号公園	仙台市太白区四郎丸字吹上77-9	747	郡山源兵衛東公園	仙台市太白区郡山字源兵衛東42-4外
695	沼田公園	仙台市太白区袋原一丁目6-12	748	四郎丸昭和前公園	仙台市太白区四郎丸字昭和前4-17
697	渡道公園	仙台市太白区四郎丸字渡道43-3	749	山木公園	仙台市若林区上飯田三丁目64-3
698	四郎丸新田公園	仙台市太白区四郎丸字新田102-14	750	高田3号公園	仙台市若林区上飯田三丁目1-12
699	落合公園	仙台市太白区四郎丸字落合12-35	751	高田1号公園	仙台市若林区上飯田三丁目105-7外
701	前沖北東公園	仙台市太白区中田町字前沖北2-3	752	土手畑1号公園	仙台市若林区上飯田二丁目133-7
702	中首長公園	仙台市太白区中田町字中首長70-12	753	上飯田大町1号公園	仙台市若林区上飯田四丁目144-5
703	原前公園	仙台市太白区袋原三丁目1-10	754	上飯田大町2号公園	仙台市若林区上飯田四丁目155-12
704	原公園	仙台市太白区袋原一丁目35-15	755	上飯田大町6号公園	仙台市若林区上飯田四丁目113-13
705	小平公園	仙台市太白区袋原六丁目59-11	756	門暮2号公園	仙台市若林区今泉一丁目29-4
706	袋原北公園	仙台市太白区袋原二丁目24-43	757	上飯田大町5号公園	仙台市若林区上飯田四丁目76-7
707	南小泉公園	仙台市若林区古城三丁目209-7外	758	山木4号公園	仙台市若林区上飯田三丁目123-15外
708	卸町東二丁目公園	仙台市若林区卸町東二丁目4-1	759	上飯田大町4号公園	仙台市若林区上飯田四丁目71-9
709	卸町五丁目公園	仙台市若林区卸町五丁目4	760	上飯田大町7号公園	仙台市若林区上飯田四丁目63-6
710	卸町公園	仙台市若林区卸町二丁目13	761	上飯田大町3号公園	仙台市若林区上飯田四丁目88-29
711	高砂一丁目公園	仙台市宮城野区高砂一丁目23-1	762	飯田前2号公園	仙台市若林区今泉一丁目26-19
712	岡田西町公園	仙台市宮城野区岡田西町2	763	門暮9号公園	仙台市若林区今泉一丁目78
713	福田町南一丁目公園	仙台市宮城野区福田町南一丁目1007	764	久保田東公園	仙台市若林区今泉二丁目6-15
714	高田4号公園	仙台市若林区上飯田三丁目33-9	765	飯田前公園	仙台市若林区今泉二丁目73-37
716	河原下10号公園	仙台市若林区沖野六丁目93-13	766	久保田公園	仙台市若林区今泉二丁目51-14外
717	横堀前4号公園	仙台市若林区上飯田一丁目5-2外	767	山木2号公園	仙台市若林区上飯田二丁目73-36
718	蒲岡公園	仙台市若林区蒲岡21-2外	768	土手畑5号公園	仙台市若林区上飯田二丁目125-6外
719	高田5号公園	仙台市若林区上飯田三丁目48-13	769	土手畑3号公園	仙台市若林区上飯田二丁目138-11
720	久保田東2号公園	仙台市若林区今泉二丁目1-8	770	土手畑2号公園	仙台市若林区上飯田二丁目145-29
721	下飯田築道2号公園	仙台市若林区六郷42-7	771	土手畑4号公園	仙台市若林区上飯田二丁目90-4
722	若林五丁目3号公園	仙台市若林区若林五丁目22-2	772	土手畑6号公園	仙台市若林区上飯田二丁目82-19外
723	大和町一丁目4号公園	仙台市若林区大和町一丁目63-4	773	上飯田遠西公園	仙台市若林区上飯田一丁目108-6
724	今泉二丁目公園	仙台市若林区今泉二丁目87-2	774	飯田遠西公園	仙台市若林区上飯田一丁目28-12
725	大和町五丁目北公園	仙台市若林区大和町五丁目40-4	775	上飯田遠西3号公園	仙台市若林区上飯田一丁目39-21
726	梅塚公園	仙台市若林区今泉一丁目337-4	776	河原下8号公園	仙台市若林区沖野六丁目30-11
727	沖野一丁目東公園	仙台市若林区沖野一丁目104-20	777	館南3号公園	仙台市若林区沖野六丁目283-40
728	沖野一丁目南公園	仙台市若林区沖野一丁目106-23	778	館南5号公園	仙台市若林区沖野六丁目376-25
729	遠見塚一丁目東公園	仙台市若林区遠見塚一丁目242-12	779	横堀前公園	仙台市若林区上飯田一丁目23-4
730	遠見塚二丁目南公園	仙台市若林区遠見塚二丁目267-12	780	横堀前2号公園	仙台市若林区上飯田一丁目55-30
731	扇町一丁目公園	仙台市宮城野区扇町一丁目4	781	横堀前3号公園	仙台市若林区上飯田一丁目62-3外
732	日の出町公園	仙台市宮城野区日の出町三丁目6	782	上飯田前田公園	仙台市若林区上飯田二丁目24-15
733	扇町四丁目公園	仙台市宮城野区扇町四丁目9-1	783	高田2号公園	仙台市若林区上飯田三丁目46-3
734	西原公園	仙台市宮城野区蒲生二丁目37	784	七曲公園	仙台市若林区かすみ町91-8
735	扇町六丁目公園	仙台市宮城野区扇町六丁目5-1	785	稲荷堂公園	仙台市若林区霞目二丁目234-30
736	四郎丸神明公園	仙台市太白区四郎丸字神明58-7	786	三ノ坪公園	仙台市若林区沖野一丁目15-31
737	四郎丸新田2号公園	仙台市太白区四郎丸字新田105-11	787	霞ノ目背戸公園	仙台市若林区霞目二丁目15-1
738	袋原下谷地公園	仙台市太白区袋原二丁目111-11外	788	案内公園	仙台市宮城野区東仙台五丁目7-30外
739	吹上4号公園	仙台市太白区四郎丸字吹上34-12外	789	伊藤屋敷下公園	仙台市若林区かすみ町425-20
740	袋原畑中東公園	仙台市太白区袋原四丁目24-8外	790	門田東公園	仙台市若林区かすみ町21-13
741	渡道南公園	仙台市太白区四郎丸字渡道42-13外	791	土手下中公園	仙台市若林区蒲岡512-22外
742	耳取西公園	仙台市宮城野区白鳥二丁目48-19	792	館南2号公園	仙台市若林区沖野六丁目306-5
743	福室要谷公園	仙台市宮城野区福室四丁目28-4外	793	蒲北2号公園	仙台市若林区蒲岡20-4外
744	福室要谷2号公園	仙台市宮城野区福室四丁目30-7外	794	蒲北公園	仙台市若林区蒲岡14-7外
745	田子一丁目南公園	仙台市宮城野区田子一丁目1001-26	795	蒲岡穴田公園	仙台市若林区蒲岡19-17
796	七曲2号公園	仙台市若林区かすみ町70-24外	1622	新田東二丁目公園	仙台市宮城野区原町若竹字館前60-2の一部外